



2025 COMPASS

オーナーハンドブック



Jeep[®]

車両の画像は一例です。実際に販売される製品は異なる場合があります。

COMPASS

1

はじめに
ページ 4



2

インテリア
ページ 6



3

エクステリア
ページ 24



緊急
ページ 29



5

仕様
ページ 40



さく引
ページ 44

はじめに

オーナーハンドブック、はじめに	4
記号説明	4
アシスタンスが必要な場合	5

インテリア

インテリアの概要	6
始動と運転	6
Keyless Enter-N-Go™ - パッシブ・エントリ	6
START & STOP システム - タイプ別装備	7
マルチメディア	7
Uconnect システム	7
Uconnect の設定	8
デバイスのペアリング／削除	8
Apple CarPlay®	8
Android Auto™	9
Uconnect 音声認識 - タイプ別装備	9
充電およびコンセント	9
電源コンセント - タイプ別装備	9
パワー・インバーター - タイプ別装備	10
USB コントロール	11
無線充電パッド - タイプ別装備	11
インストールメント・パネルについて	12
プレミアム・インストールメント・パネル	12
インストールメント・パネル・ディスプレイの位置とスイッチ	13
警告灯およびメッセージ	13
室内のコンフォート設定	14
ヒーター／エアコン	14

自動ヒーター／エアコンの説明および機能	14
自動温度コントロール (ATC)	15
エアコン・ボイス・コマンド	15
フロント・シート・ヒーター - タイプ別装備	15
フロント・ベンチレーテッド・シート - タイプ別装備	16
電動調整 (フロント・シート) - タイプ別装備	16
運転席メモリ設定 - タイプ別装備	16
ヘッド・レスト	16
車外灯	17
ヘッドライト・スイッチ	17
自動ハイ・ビーム・ヘッドライト制御 - タイプ別装備	18
オート・ヘッドライト	18
フロントガラス・ワイパおよびウォッシュャ	18
フロントガラス・ワイパの作動	18
雨感知ワイパ	19
クルーズ・コントロール・システム	19
アダプティブ・クルーズ・コントロール (ACC) の操作	19
パーキング・アシスト	21
ParkSense フロント／リヤ・パーキング・アシスト	21
ト・システム - タイプ別装備	21
電動パーキング・ブレーキ (EPB)	21

エクステリア

エクステリアの概要	24
エクステリア・カメラの表示	24
カメラの手動操作	24
ボンネット	25
ボンネットを開けるには	25
ボンネットを閉じるには	25

リフトゲート	26
リフトゲートの解錠／リフトゲートを開ける	26
車両の給油 - ディーゼル・エンジン	26
ADBLUE® (UREA: 尿素) - タイプ別装備	27
AdBlue® (UREA: 尿素) の保管	27
AdBlue® (UREA: 尿素) の補充	28

緊急

HELP ミラー - タイプ別装備	29
ジャッキ・アップとタイヤ交換 - タイプ別装備	30
ジャッキ作業の準備	30
ジャッキ／スベア・タイヤの収納場所	31
ジャッキ作業の手順	31
タイヤ・サービス・キット - タイプ別装備	33
ジャンプ・スタート	33
ジャンプ・スタートの準備	34
ジャンプ・スタートの手順	34
スタックからの脱出	35
走行不能車両のけん引	36
イグニッション・キー・フォブがない場合	37
前輪駆動車 (FWD) モデル - キー・フォブ付き	37
4X4 モデル	37
けん引フック - タイプ別装備	37

仕様

エンジン・ルーム	40
2.4L ガソリン・エンジン	40
フルード容量	41

エンジン・フルードおよび潤滑剤	41
シャーシ・フルードおよび潤滑剤	42
整備およびお手入れ	43
お手入れの計画	43
オイル交換のリセット - タイプ別装備	43
エンジンの慣らし運転について	43

オーナーハンドブック、はじめに

Jeep®をお選びいただきありがとうございます。このオーナーハンドブックは、お車の重要な機能をすぐにご理解いただけるように作成されています。このハンドブックには、緊急情報を含め、自動車の運転と維持に必要なほとんどのことが記載されています。

このハンドブックでは、お客様のお車に標準装備またはオプション装備されている特定の機能や装備の操作方法についても図解して説明しています。お客様のお車に装備されていない機能や装備の説明が含まれている場合もあります。FCA International Operations LLC (FCAIO) は、以前に生産された車について何ら義務を負うことなく、設計および仕様を変更し、製品への追加・改良を行う権利を有するものとします。

記号説明

警告!	この記載は、衝突事故やけが、死亡につながる恐れのある運転操作などに適用されます。
注意!	この記載は、車に損傷を与える恐れのある操作などに適用されます。

メモ:	取り付け、操作、信頼性を改善するための提案です。これに従わないと、損傷が発生することがあります。
ヒント:	製品や機能をより使いやすくするための一般的なアイデア／解決策／提案です。
 ページ参照矢印	これを参照すると、特別な機能についての詳細な情報が得られます。
 脚注	その項目に付随する補足／該当情報です。

重要な情報を見逃すことのないよう、本書をよくお読みください。注意および警告には必ず従ってください。

アシスタンスが必要な場合

FCAIO のディーラーでは、製品およびサービスがお客様にご満足いただけるものであるよう常に心がけています。整備その他に関する問題がありましたら、次のようにお問い合わせします。

- 問題をジープ正規ディーラーの担当者または責任者にご相談ください。問題を早期に解決するためには、ジープ正規ディーラーの販売責任者が最もふさわしい立場にあると考えます。
- **日本**

それでも問題が解決しない場合は、FCAIO までご連絡ください。

Jeep®フリー・ダイヤル

地域の無料電話サービス番号

電話: 0120-712-812

販売店にご連絡の際は、下記の内容をお伝えください。

- お客様のお名前、ご住所、お電話番号
- 車両識別番号(VIN) (この 17 桁の番号は、運転席側のインストルメント・パネルの上隅にある、フロント・ウィンドウ越しに見えるプレートに記載されています。また、この番号は車検証にも記載されています)
- 車両を購入し、整備を担当しているジープ正規ディーラー一名
- 車両の納車日およびオドメータが示す現在の走行距離
- 車両の整備記録
- 発生した問題とその状況に関する詳しい説明

インテリアの概要



1 - HELP ボタン ⇨ ページ 29

2 - Uconnect ラジオ画面表示 ⇨ ページ 7

3 - インstrument・パネル・ディスプレイ ⇨ ページ 12

4 - フロントガラス・ワイパおよびウォッシャ ⇨ ページ 18

5 - Keyless Enter -N Go™イグニッション

6 - Instrument・パネルのスイッチ ⇨ ページ 13

7 - Uconnect のボイス・コマンド・ボタン ⇨ ページ 9

8 - クルーズ・コントロール・ボタン ⇨ ページ 19

9 - ヒーター/エアコン ⇨ ページ 14

10 - トランスミッション・レバー

11 - 無線充電パッド ⇨ ページ 11

12 - ヘッドライト・スイッチ ⇨ ページ 17

始動と運転

KEYLESS ENTER-N-Go™ - パッシブ・エントリー

Keyless Enter-N-Go™ - パッシブ・エントリーにより、キー・フォブのロックまたはロック解除ボタンを押さなくても、車両

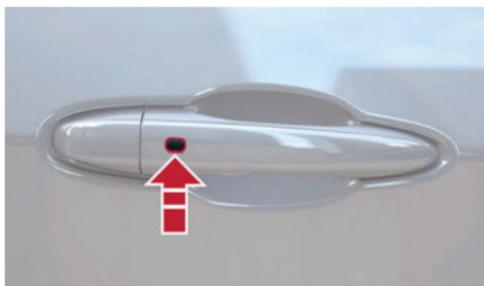
のドアやリフトゲート、フューエル・リッドを施錠または解錠することができます。

ドアおよびリフトゲートの解錠/施錠

有効なパッシブ・エントリー・キー・フォブを身につけた状態でハンドルをつかむと、車両を解錠できます。運転席のハンドルは運転席ドアのみロックを解除し(Uconnect 設定で

特にプログラムされていない場合)、助手席のハンドルはすべてのドアとリフトゲートのロックを解除します。

有効なパッシブ・エントリー・キー・フォブを身につけた状態で、車外のドア・ハンドルにあるパッシブ・エントリー・ロック・ボタンを押して車両のドアとリフトゲートを施錠します。



ドア・ハンドル・ロック・ボタンを押しての施錠

メモ：

- ドア・ハンドル・ロック・ボタンを押しているときは、ドア・ハンドルをつかまないでください。これにより、ドアが解錠されることがあります。
- キー・フォブは必ず手元に置いてください。

START & STOP システムタイプ別装備

停止／始動システムは、燃費向上のために開発された機能です。必要条件が満たされると、停車中にシステムがエンジンを自動的に停止させます。ブレーキ・ペダルを放すか、クラッチ・ペダルを放すか、アクセル・ペダルを踏み込むと、エンジンは自動的に再始動します。

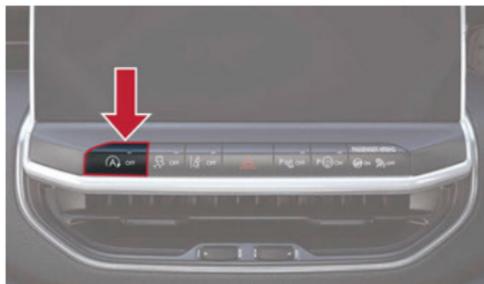
システムが「Stop/Start Ready (START&STOP システム準備 OK)」の状態であること。「インストルメント・パネルについて」のインストルメント・パネル・ディスプレイの

「START&STOP」セクション内に、「Stop/Start Ready (停止／始動準備 OK)」のメッセージが表示されます。

START&STOP システムを手動で OFF にする方法

START&STOP システムを手動でオフにできることをご存じでしたか？

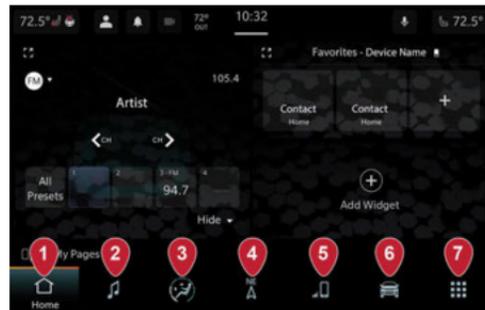
START&STOP システム「OFF (オフ)」スイッチを押すだけで、この機能がオフになります。スイッチのライトが点灯し、インストルメント・パネル・ディスプレイに「STOP/START OFF (START&STOP オフ)」のメッセージが表示されます。



START&STOP システム「OFF (オフ)」ボタン

マルチメディア

Uconnect システム



Uconnect 5 NAV ディスプレイ

- 1 - 「Home (ホーム)」ボタン
- 2 - 「Radio/Media (ラジオ／メディア)」ボタン
- 3 - 「Comfort (コンフォート)」ボタン
- 4 - 「Navigation (ナビゲーション)」ボタン (タイプ別装備)
- 5 - 「Phone (電話)」ボタン
- 6 - 「Vehicle (車両)」ボタン
- 7 - 「Apps (アプリ)」ボタン

メモ：

Uconnect 画面の画像は、ご使用の車両のソフトウェアを正確に反映していない場合があります。

Uconnect の設定



Uconnect 5 NAV ディスプレイの Uconnect の設定

「Vehicle(車両)」ボタンを押してから、タッチスクリーンの上部にある「Settings(設定)」ボタンを押して、設定のカスタマイズを開始します。

メモ:

車両オプションによって、機能設定が異なることがあります。

- **Display(ディスプレイ)** — ディスプレイの明るさなどの機能をカスタマイズしたり、インストルメント・パネル・ディスプレイに表示されるナビゲーションの指示を設定したりします。
- **Safety/Driving Assistance(セーフティ/ドライビング・アシスト)** — 警告信号やステアリング・ホイールの強さなどの設定をカスタマイズします。

- **Phone/Bluetooth®(電話/Bluetooth®)** — ペアリングされているデバイスに関する設定をカスタマイズします。
- **Camera(カメラ)** — 車両のカメラ設定をカスタマイズします。
- **Seats & Comfort(シートおよびコンフォート)** — シート・ヒータやステアリング・ホイール・ヒータで快適性をカスタマイズします。
- **Key Off Options(キー・オフ時のオプション)** — 車両をシャットダウンするときの動作をカスタマイズします。
- **Audio(オーディオ)** — オーディオ設定をカスタマイズします。

デバイスのペアリング／削除

1. 携帯電話の Bluetooth® が有効になっていることを確認してください。
2. 車両を「ACC」または「ON/RUN(オン/走行)」位置にした状態で、車両のタッチスクリーン・メニュー・バーの「Phone(電話)」ボタンを押します。
3. 「Device Manager(デバイス・マネージャ)」を押します。
4. 「Add Device(デバイスの追加)」を選択します。



Uconnect 5 NAV ディスプレイの電話のペアリング

5. 携帯電話とタッチスクリーンの指示に従ってください。以下の手順に従ってスマートフォンを削除します。

1. タッチスクリーンの「Device Manager(デバイス・マネージャ)」ボタンを押します。
2. 削除する電話またはデバイスの横にある「Settings(設定)」の歯車アイコンを押します。
3. 「Delete Device(デバイスの削除)」を押します。これでデバイスは削除されます。

APPLE CARPLAY®

1. 初回接続時に iPhone® のロックが解除されていることを確認し、設定で Siri が有効になっていることを確認します。
2. iPhone® を車内のメディア USB ポートに接続するか、iPhone® とシステムをペアリングします。システム

とペアリングされていれば、デバイスを接続する必要はありません。

3. 機器が接続されて認識されると、メニュー・バーの「Phone(電話)」アイコンが Apple CarPlay®アイコンに変わります。

メモ：

Apple CarPlay®を使用するには、携帯電話のデータ通信が作動していて、携帯電話の通話圏内にいることを必ず確認してください。携帯電話の電波状況が Apple CarPlay®内のタッチスクリーンの左側に表示されます。データ・プランの料金が適用されることがあります。

ANDROID AUTO™

1. Google Play ストアから Android Auto™アプリをダウンロードします。
2. 携帯電話を車内のメディア USB ポートに接続するか、携帯電話とシステムをペアリングします。システムとペアリングされていれば、デバイスを接続する必要はありません。
3. 機器が接続されて認識されると、メニュー・バーの「Phone(電話)」アイコンが Android Auto™アイコンに変わります。

メモ：

Android Auto™を使用するには、携帯電話の通信圏内にいることを必ず確認してください。Android Auto™は、携帯電話のデータを使用し、お使いの携帯電話の電波状況はタッチスクリーンの右上隅に表示されています。データ・プランの料金が適用されることがあります。

Uconnect 音声認識 - タイプ別装備

はじめに

Uconnect の VR の使用開始時には、このクイック・ヒントが役立ちます。重要なボイス・コマンドと、お使いの車両の VR システムのコントロールのために知っておくべきヒントが記載されています。

基本的ボイス・コマンド

下記の基本的ボイス・コマンドは、Uconnect システムの使用済みいつでも使用できます。

「VR(音声認識)」ボタンを押すか、Uconnect 5 NAV の場合は車両を「起動させる」言葉、「Hey Uconnect、(へい、ユーコネクト)」と発話します。ピープ音の後で、

- 「Cancel(キャンセル)」と発声すると、現在のボイス・セッションが中止されます。
- 「Help(ヘルプ)」と発声すると、推奨ボイス・コマンドのリストが聞こえます。
- 「Repeat(リピート)」と発声すると、システムの指示が再度聞こえます。

Uconnect システムで VR システムの状態を知らせる視覚的な合図に注目してください。

メモ：

音声認識機能が搭載されていない車両でも、音声認識ボタンがある場合があります。これらのボタンは、Siri または Google アシスタントの音声認識セッションを開始することで、Android Auto™および Apple CarPlay®と連動します。お使いのデバイスによっては、音声認識セッションを開始するために VR ボタンを 1 秒間長押しする必要があります。

充電およびコンセント

電源コンセント - タイプ別装備

この車両には、携帯電話、小型電子機器、およびその他の低消費電力のアクセサリ機器に電源を供給できる 12 ボルト(13A)の電源ソケットが装備されていることがあります。

注意!

電源ソケットはアクセサリ・プラグ専用設計に設計されています。電源ソケットにはその他の物を挿入しないでください。ソケットを損傷し、ヒューズが飛ぶ場合があります。電源ソケットの使い方を誤ると新車保証の対象外の損傷を引き起こす恐れがあります。

電源コンセントはリヤ・カーゴ・エリアにあります。



リヤ・カーゴ・エリアの電源コンセント - タイプ別装備

警告!

重傷または死亡事故を防ぐため、次の事項を守ってください。

- 12V ソケットには、このタイプのソケット専用の機器のみを挿入してください。
- 濡れた手で触らないでください。
- 走行しているとき、および使用していないときは、キャップを閉めてください。
- ソケットの扱いを誤ると、感電や心臓麻痺を起こす恐れがあります。

注意!

- プラグ接続タイプのほとんどのアクセサリ部品（携帯電話など）は、使用中以外もバッテリー電源を消費します。長時間プラグを差し込んだままにしておくと、車のバッテリーが放電してバッテリーの寿命を縮めたり、エンジン始動に支障をきたすことがあります。
- 電力を大量消費するアクセサリ部品（クーラ、掃除機、ライトなど）は、バッテリーの寿命をさらに縮めます。このようなアクセサリ部品は、注意を払って断続的に使用してください。
- 電力を大量消費するアクセサリ部品を使用した後や、電源プラグを差し込んだまま長期間エンジンを始動しなかった場合は、車両を十分な時間走行させ、バッテリーを充電してください。

パワー・インバーター タイプ別装備



パワー・インバーターの位置

115V、150W のインバータのコンセントがセンタ・コンソールの背面にあり、DC 電流を AC 電流に変換します。このコンセントは、最大 150W の電力を必要とする携帯電話、電子機器、その他の低電力機器に電力を供給できます。一部のビデオ・ゲーム機器や大部分の電動工具はこの電力制限を上回ります。

機器のプラグを差し込むだけで、パワー・インバータ・コンセントがオンになります。機器のプラグを抜くと、コンセントが自動的にオフになります。

パワー・インバータは過負荷保護装置を内蔵した設計です。150W の電力定格を超えると、パワー・インバータは自動的に停止します。電気装置をコンセントから外すと、インバータは自動的にリセットされます。回路の過負荷を避けるため、インバータを使用する前に電気装置の電力定格を確認してください。

警告!

重傷または死亡事故を防ぐため、次の事項を守ってください。

- コンセントにいかなる異物も挿入しないでください。
- 濡れた手で触らないでください。
- 使用していないときは蓋を閉めてください。
- ソケットの扱いを誤ると、感電や心臓麻痺を起こす恐れがあります。

USB コントロール

この車両には、ヒータ/エアコンの下に USB タイプ A および USB タイプ C ポートが装備されている場合があります。



タイプ A とタイプ C USB ポート

- 1 - USB タイプ C ポート
- 2 - USB タイプ A ポート

センタ・コンソールの後方に、タイプ A USB ポートとタイプ C USB ポートがもう1つある場合があります(タイプ別装備)。

2 列目の USB タイプ A 充電ポートは、充電専用として使用できます。接続ケーブルを使用して、外部 USB 機器を車両の USB 充電ポートに接続します。

無線充電パッド タイプ別装備

車両によっては、ストレージ・コンパートメント内部のセンタ・スタック下に無線充電パッドが装備されています。これは、外出先でも Qi*対応携帯電話を簡単に充電できる機能です。



無線充電パッド

モバイル機器は充電パッドの中央に置き、ディスプレイを上向きにして、機器で LED を覆わないようにしてください。

LED 表示灯の状態:



消灯: 充電パッドがアイドル状態か、デバイスを検索しているか、デバイスが Qi*規格に対応していない可能性があります。



青色のライトが点灯: 機器が検知され充電中です。



赤色のライトが点灯/点滅: 内部エラーまたは異物が検出されています。



緑色のライトが点灯: 機器のバッテリー充電が完了しています(この情報を送信する機能が機器に備わっている場合)。

メモ:

- 充電パッドの上や近くにキー・フォブを置かないでください。
- スマートフォン・ケースを使用していると、無線充電が妨げられる場合があります。

注意!

キー・フォブは、充電パッドの上や 15cm (6 インチ) 以内に置いてはいけません。このような場所に置くと、フォブが過熱して損傷する恐れがあります。フォブを充電パッドの近くに置くと、車両がフォブを検出できなくなり、車両が始動しなくなります。

故障や火傷を防ぐため、次のことに注意してください。

- 充電中は、充電パッドと携帯電話の間に金属物(硬貨、鍵、金属のカード、ペーパー・クリップなど)やキー・カードを挟まないでください。
- 充電部を置く機器側に金属物(アルミ・シールなど)を貼らないでください。

インストルメント・パネルについて

プレミアム・インストルメント・パネル



1. 温度計

- 水温計は、エンジン・クーラントの温度を示します。水温計が正常な範囲内を示していれば、エンジン冷却装置は正しく作動しています。
- 気温が高い場所での走行、登坂走行、またはトラクションコントロールが作動している時などは、表示は高めになります。水温計の指針が通常作動範囲の上限を超えないように注意してください。

警告!

過熱したエンジン冷却装置は危険です。蒸気や沸騰しているクーラントで重度のやけどを負う恐れがあります。車がオーバーヒートしたら、ジープ正規ディーラーに連絡することをお勧めします。

注意!

エンジン冷却装置が過熱した状態で運転すると、車が損傷することがあります。水温計が「H」を示している場合は、車を路肩に停めてください。エアコンディショナを切り、針が通常温度範囲に下がるまでアイドリングします。水温計の針が「H」から動かない場合は、直ちにエンジンを止めて、ジープ正規ディーラーに整備を依頼してください。

2. タコメータ

- 1分間あたりのエンジン回転数(RPM x 1000)を表示します。

3. スピードメータ

- 車速を示します。

4. 燃料 ゲージ

- 燃料計は、キーレス・ブッシュ・ボタン・イグニッションが「ON/RUN」位置のとき、燃料タンク内にある燃料の残量を示します。

-  このフューエル・ポンプのマークは、車両のフューエル・リッドがある側を示しています。

メモ：

イグニッションを最初にまわしたときは、電圧確認のためインストルメント・パネルの警告灯が点灯します。

インストルメント・パネル・ディスプレイの位置とスイッチ

インストルメント・パネル・ディスプレイは、インストルメント・パネルにある運転者との対話式ディスプレイを備えています。

情報を選択するには、ステアリング・ホイールに取り付けられた次のボタンを押します。



プレミアム・インストルメント・パネル・ディスプレイのコントロール・ボタン

● 上矢印ボタン

メイン・メニューとサブメニューを上方向にスクロールするには、**上 ▲** 矢印ボタンを押して放します。

● OK ボタン

メイン・メニュー項目の情報画面またはサブメニュー画面の項目を確定するためには、**OK** ボタンを押します。**OK** ボタンを1秒間押し続けると、表示または選択されているリセット可能な機能がリセットされます。

● 「MENU(メニュー)」ボタン - タイプ別装備

「HOME Screen(ホーム画面)」ディスプレイの情報画面またはサブメニュー画面にアクセスしたり選択したりするには、「**MENU(メニュー)**」ボタンを押します。編集モードに入るには、「**OK**」ボタンを押し続けます。

● 左矢印ボタン

メイン・メニュー項目の情報画面またはサブメニュー画面にアクセスするには、**左 ◀** 矢印ボタンを押して放します。

● 下矢印ボタン

メイン・メニューとサブメニューを下方向にスクロールするには、**下 ▼** 矢印ボタンを押して放します。

● 右矢印ボタン

メイン・メニュー項目の情報画面またはサブメニュー画面にアクセスするには、**右 ▶** 矢印ボタンを押して放します。

警告灯およびメッセージ

警告灯、表示灯、メッセージは、車両のさまざまな状態を示すために表示されます。例と詳細な説明については、クイック・スタート・ガイドまたはオーナー・マニュアルを参照してください。車両装備によりオプションとなる表示がありません。

室内のコンフォート設定

ヒータ／エアコン



Uconnect 5 ディスプレイ・オートマチック・エアコン

自動ヒータ／エアコンの説明および機能

「MAX A/C (急速冷房)」ボタン



タッチスクリーンのボタンを押して、システムを最大エアコン (A/C) に設定します。

「A/C (エアコン)」ボタン



このボタンを押して、エアコン (A/C) システムを作動させます。

「Recirculation (内気循環)」ボタン



内気循環モードと外気モードを切り替えるには、このボタンを押します。

「Auto (自動)」ボタン



希望の温度を設定した後にこのボタンを押すと、システムは設定温度を維持します。

「MAX Defrost (急速デフロスタ)」ボタン

「MAX Defrost (急速デフロスタ)」ボタンを押すと、現在の送風設定がデフロスタ・モードに変わります。この機能がオンのときはインジケータが点灯します。この機能を使用すると、オート・ヒータ／エアコンが手動モードに切り替わります。

「Rear Defrost (リヤ・デフロスタ)」ボタン

リヤ・ウィンドウ・デフロスタおよびヒートッド・ドア・ミラー (タイプ別装備) を ON にするには、タッチスクリーンのボタンを押して放すか、フェイスプレートのボタンを押して放します。

注意!
これらの注意事項に従わないと、電熱線が損傷する恐れがあります。
<ul style="list-style-type: none">● リヤ・ウィンドウの内側を清掃する際は注意してください。リヤ・ウィンドウの内側表面に研磨剤入りのウィンドウ・クリーナを使用しないでください。柔らかい布と中性洗剤液を使用して、電熱線と平行に拭きます。ガラスの上のラベルは、お湯に浸すと剥がせます。● リヤ・ウィンドウの内側表面にスクレーパ、尖った工具、研磨剤入りのウィンドウ・クリーナを使用しないでください。● ウィンドウの近くに物を置かないでください。

運転席側および助手席側温度コントロール・ボタン

これらのボタンにより、運転者および助手席の乗員が独立して温度を制御できます。

フェイスプレートまたはタッチスクリーンの赤いボタンを押すか、温度バーをタッチスクリーンの赤色の矢印ボタン方向に押しスライドさせると、設定温度が上がります。

フェイスプレートまたはタッチスクリーンの青いボタンを押すか、温度バーをタッチスクリーンの青色の矢印ボタン方向に押しスライドさせると、設定温度が下がります。

SYNC ボタン

タッチスクリーンの「SYNC」ボタンを押すと、運転席と助手席の温度設定が同期されます。

ファン・スピード・スイッチ

ファン・スピード・コントロールは、ヒータ／エアコン・システムを通過する空気の量を調整するために使用します。ファン・スピードは 7 段階あります。ファン・スピードを調整すると、自動モードは手動操作に自動的に切り替わります。ファン・スピードは、フェイスプレートのファン・スピード・スイッチ・ノブまたはタッチスクリーンのボタンを使用して選択できます。

モード・コントロール

モード・コントロールは送風量を調節します。インストルメント・パネル吹き出し口、フロア吹き出し口、デフロスタ吹き出し口、デミスタ吹き出し口から送風されるように風向きを調節できます。

フェイスプレート

「Modes(モード)」ボタンを回して風向きのモードを変更します。

タッチスクリーン

「MODE(モード)」ボタンの 1 つを押して、風向きのモードを変更します。

「エアコン OFF」ボタン

ヒータ／エアコンをオンまたはオフにするには、このボタンを押して放します。

自動温度コントロール(ATC)

オートマチック操作

- フェイスプレートの「AUTO(自動)」ボタンを押すか、自動温度コントロール(ATC)パネルのタッチスクリーンの「AUTO(自動)」ボタンを押します(タイプ別装備)。
- 次に、温度コントロール・ボタンを調節して、維持したい温度に合わせます。希望の温度が表示されたら、システムは自動的にその車内温度に調節して維持します。
- 希望の温度にシステムが設定されたら、設定を変更する必要はありません。システムが自動的に機能し、効率よく温度を調節することができます。

メモ:

車両の温度に応じて温度設定を操作する必要はありません。快適な状況をできるだけ早く提供するために、システムは自動的に温度、モードおよびファン・スピードを調整します。

手動操作オーバーライド

このシステムは、優先的に手動操作で作動させることができます。システムが手動モードで使用されている場合、フロントの自動温度コントロール(ATC)ディスプレイ内のAUTO表示が消灯します。

エアコン・ボイス・コマンド

ステアリング・ホイールの「VR(音声認識)」ボタンを押します。ビーブ音の後、以下のコマンドのいずれかを発声してください。

- 「Set the driver temperature to 20degrees(運転席温度を 20 度に設定)」
- 「Set the passenger temperature to 20 degrees(助手席温度を 20 度に設定)」

エアコンのボイス・コマンドは、車両の室内温度の調整にのみ使用できます。ボイス・コマンドは、シート・ヒータまたはステアリング・ホイール・ヒータ(タイプ別装備)の温度調整には使用できません。

フロント・シート・ヒータ - タイプ別装備



シート・ヒータ・ボタンを押すと、HI、MED(タイプ別装備)、LO、オフの設定が切り替わります。

警告!

- 高齢、慢性疾患、糖尿病、脊髄損傷、薬物治療、アルコールの摂取、疲労、またはその他の生理的状態により、皮膚に痛みを感じる方ができない方は、シート・ヒータを使用する場合に注意が必要です。特に長時間使用した場合、低温やけどを起こす恐れがあります。
- 毛布やクッションなど、断熱効果のあるものを座席の上またはシート・バック表面に置かないでください。シート・ヒータが過熱する恐れがあります。過熱状態のシートに座り続けると、シートの表面温度が上昇して、重度のやけどを負う恐れがあります。

フロント・ベンチレーテッド・シート・タイプ別装備



シート・ベンチレーテッド・ボタンを押すと、HI、MED(タイプ別装備)、LO、オフの設定が切り替わります。

電動調整(フロント・シート)タイプ別装備

一部のモデルには、運転席と助手席(装備されない場合もあります)にパワー・シートが装備されています。

パワー・ランパ・スイッチ、パワー・シート・スイッチおよびパワー・シート・リクライニング・スイッチは、シートのドア側、フロア付近にあります。パワー・ランパ・スイッチを使用するには、スイッチの前方を押してランパ・サポートを強くします。ランパ・サポートを弱くするには、スイッチの後方を押します。スイッチを上方へ押すとサポートが上昇し、下方へ押すとサポートが下降します。

パワー・シート・スイッチを使用して、シートの高さ、角度、または前後位置を調節します。パワー・シート・リクライニング・スイッチを使用して、シート・バックの角度を調節します。



パワー・シート調整スイッチ

- 1 - パワー・ランパ・スイッチ
- 2 - パワー・リクライニング・スイッチ
- 3 - パワー・シート・スイッチ

警告!

シート・バックを倒し、ショルダ・ベルトが胸部から離れた状態で車を運転しないでください。衝突時、シートベルトの下で体が滑り、大きなけがや死亡事故につながる恐れがあります。

運転席メモリ設定 - タイプ別装備

この機能を使うことによって、運転者はメモリ・プロフィールを2つまで保存し、メモリ・スイッチで簡単に呼び出すことができます。各メモリ・プロフィールは希望の運転席位置設定を保存します。

メモ:

車両にはキー・フォブが2個装備されているので、各キー・フォブをメモリ位置1または2のいずれかにリンクさせることができます。

メモリ設定スイッチは、運転席側のドア・トリム・パネルにあります。スイッチは以下の3つのボタンで構成されています。

- 「SET(セット(S))」ボタンは、メモリ保存機能をオンにするために使用します。
- (1)ボタンと(2)ボタンは、保存済みのメモリ・プロフィールのいずれかを呼び出すために使用します。



「Memory Settings(メモリ設定)」スイッチ

ヘッド・レスト

この車両には、運転席と助手席にフロント2ウェイ・ヘッド・レストが装備されています。

ヘッド・レストは、後方から追突されたときに頭部の動きを制限して負傷の危険性を低減します。ヘッド・レストは、ヘッド・レストの上端が耳の上端より上になるように調整してください。

フロント・ヘッド・レスト

- ヘッド・レストを上げるには、ヘッド・レストを上を引きます。
- ヘッド・レストを下げるには、ヘッド・レストのベース部にある調整ボタンを押してからヘッド・レストを下に押します。



ヘッド・レスト調節ボタン

リヤ・ヘッド・レスト

リヤ・ヘッド・レストには、上と下の2つの位置があります。センタ・シートに乗員が座っているときは、ヘッド・レストを上げた位置にする必要があります。センタ・シートに乗員が座っていないときは、ヘッド・レストを下げて運転者の視界をよくすることができます。



メモ:

ヘッド・レストの取り外しは、資格を持った整備士が整備目的でのみ行います。いずれかのヘッド・レストを取り外す必要がある場合は、ジープ正規ディーラーにお問い合わせください。

警告!

- 運転者を含むすべての乗員は、衝突時に首を損傷する危険性を最小限に抑えるために、ヘッド・レストを正しい位置に調節してから、車両を運転したり着座したりしてください。
- 車が動いているときには、ヘッド・レストを調整しないでください。ヘッド・レストの調整が不適切な状態で運転したり、取り外した状態で運転したりすると、衝突時に傷害や死亡事故につながる恐れがあります。

警告!

取り外したヘッド・レストは、乗員保護のため、すべてを必ず元のとおり車両に取り付ける必要があります。

車外灯

ヘッドライト・スイッチ

ヘッドライト・スイッチはインストルメント・パネルの右側にあり、照明の操作に使用します。



ヘッドライト・スイッチ

- 1 - インストルメント・パネルのイルミネーション・コントロール
- 2 - ヘッドライト・レベリング・コントロール
- 3 - 回転式ヘッドライト・コントロール
- 4 - フロント・フォグ・ライト・スイッチ
- 5 - リヤ・フォグ・ライト・スイッチ

車幅灯やインストルメント・パネル・ライトを操作するには、ヘッドライト・スイッチを最初の停止位置まで時計回りに回します。ヘッドライト、駐車灯、インストルメント・パネルの照明を操作するには、ヘッドライト・スイッチを2番目のポジションまで回します。

ヘッドライトを点灯するとインストルメント・パネルと、インストルメント・パネルにあるコントロールの照明が点灯します。

自動ハイ・ビーム・ヘッドライト制御 - タイプ別装備

この車は、接近している車両が視界から消えるまでハイ・ビームをロー・ビームに自動的に切り替えることをご存じでしたか？

この機能を作動させるには、

メモ：

- Uconnect システムで、「Auto Dim High Beams (オート・ロー／ハイ・ビーム)」を「ON (オン)」に設定します。
- ヘッドライト・スイッチを「AUTO (オート)」位置にします。

オート・ヘッドライト

エンジンが作動している状態で、ヘッドライト・コントロール・ノブが「AUTO (オート)」位置になっていることを確認します。車が車外の明るさを検知し、必要に応じてヘッドライトを点灯／消灯させます。

フロントガラス・ワイパおよびウォッシュャ

フロントガラス・ワイパ／ウォッシュャ・レバーは、ステアリング・コラムの右側にあります。フロントウィンドウ・ワイパは、レバー端部にあるスイッチを回して操作します。



フロントガラス・ワイパの作動

- 1 - レバーを前方に押し続ける (リヤ・ウォッシュャ)
- 2 - 回す (リヤ・ワイパの作動)
- 3 - 回す (フロント・ワイパの作動)
- 4 - レバーを手前に引き続ける (フロント・ウォッシュャの作動)
- 5 - レバーを上を押す (ミスト)

フロントガラス・ワイパの作動

フロント・ワイパ

レバーの先端を、間欠設定を越えて最初の停止位置まで上に回すとワイパは低速で作動します。

レバーの先端を、間欠設定を越えて3番目の停止位置まで上に回すとワイパは高速で作動します。

フロントガラス・ウォッシュャ

レバーを手前に引くと、ウォッシュャ液が噴射されます。間欠設定で作動しているときにレバーを引くと、レバーを放した後にワイパが数回作動し、以前に選択した間欠作動に戻ります。

ミスト

レバーを「MIST (ミスト)」位置まで回して放すと、ワイパが1回作動します。

メモ：

ミスト機能ではウォッシュャ・ポンプは作動しないため、フロントウィンドウにウォッシュャ液は噴射されません。フロントガラスにウォッシュャ液を噴射するには、ウォッシュャ機能を使用してください。

リヤ・ウィンドウ・ワイパ／ウォッシュャ

リヤ・ウィンドウ・ワイパ／ウォッシュャ・コントロールは、ステアリング・コラムの右側のフロントウィンドウ・ワイパ／ウォッシュャ・レバーにあります。リヤ・ウィンドウ・ワイパ／ウォッシュャは、レバーの中央にあるスイッチを回して操作します。

警告!

フロントウィンドウの視界不良は、衝突事故につながります。他車や障害物を認識できません。寒冷時にフロントウィンドウが突然氷結しないように、ウォッシャーを使用する前にはデフロスタでフロントウィンドウを温めてください。

注意!

積雪時にはフロントウィンドウ・ワイパ・ブレードが停止位置に戻るように、フロントウィンドウに積もった雪を必ず取り除いてください。フロントウィンドウ・ワイパ・スイッチをOFFにしてもブレードが停止位置に戻らない場合、ワイパ・モータが損傷する恐れがあります。

雨感知ワイパ

これはフロントガラスへの降雨や降雪の付着を感知して、自動的にワイパを作動させる機能です。

マルチファンクション・レバーの端を2つのデイレント位置のいずれかの位置まで回すと、この機能が作動します。

メモ:

雨感知機能は、Uconnectシステムを使用してオン/オフを切り替えることができます。

クルーズ・コントロール・システム

一部の車両には、以下のようなクルーズ・コントロール・システム、またはアダプティブ・クルーズ・コントロール (ACC)システムが装備されています。

- クルーズ・コントロールは、車速をあらかじめ設定された一定の速度に維持します。
- アダプティブ・クルーズ・コントロール (ACC) は、あらかじめ設定された速度を上限に車速を調整して、先行車との車間距離を維持します。

メモ:

ACC 搭載車で ACC が有効になっていない場合、定速クルーズ・コントロールは自車の直前の車両を検知しません。複数のクルーズ・コントロール機能を同時に作動させることはできません。

アダプティブ・クルーズ・コントロール (ACC) の操作

アダプティブ・クルーズ・コントロール (ACC) は、あらかじめ設定された速度を上限に車速を調整して、先行車との車間距離を維持します。

警告!

- アダプティブ・クルーズ・コントロール (ACC) は利便性を追求したシステムです。運転者による運転に代わるものではありません。路面、交通状況、天候、車速、車間距離に注意し、なによりもあらゆる道路状況でブレーキを操作し安全に運転することは、運転者の責任です。安全運転を行うためには、常に十分な注意力が欠かせません。ここに示す警告に従わないと、衝突事故や死亡または重傷につながる恐れがあります。

(続き)

警告!

- ACCシステムは:
 - 歩行者、対向車、静止物(渋滞で停止している車や故障車など)には反応しません。
 - 路面、交通状況、および天候を考慮に入れることはできず、視界の悪い状況では性能が制限される場合があります。
 - 複雑な運転条件では必ずしも認識が完全に行われるわけではなく、そのため車間距離の警告が正しくなかったり、警告が発せられないことがあります。

次の場合は ACC システムをオフにしてください。

- 霧、大雨、大雪、凍結路、交通量の多い場所、複雑な状況(高速道路の工事中現場など)の中を運転する場合
- 右左折レーンや高速道路の出口ランプに入る場合、曲がりくねった道、凍結した道路、雪道、滑りやすい路面、勾配の大きい道を走行する場合
- 勾配の大きい道でトレーラをけん引する場合
- 一定速度で走行するのが危険な状況である場合



アダプティブ・クルーズ・コントロール・ボタン

- 1 - 距離設定ボタン
- 2 - アダプティブ・クルーズ・コントロール (ACC) ON/OFF
- 3 - CANCEL/キャンセル
- 4 - アクティブ・スピード・リミッター・ボタン
- 5 - SET (+)/加速
- 6 - 定速クルーズ・コントロール ON/OFF
- 7 - RES/再開
- 8 - SET (-)/減速

作動/停止するには

ON/OFF ボタンを押して離します。

警告!

アダプティブ・クルーズ・コントロール (ACC) システムを使用していないときに ON のままにしておくことは危険

(続き)

警告!

です。不意にシステムが設定されたり、予想以上の速度になることがあります。車を制御できなくなり、衝突事故につながる恐れがあります。システムを使用しないときは、常に OFF にしておいてください。

希望速度を設定するには

車両が希望速度に達したときに、「SET +」ボタンまたは「SET -」ボタンを押して放します。インストルメント・パネル・ディスプレイに設定速度が表示されます。

警告!

定速クルーズ・コントロール・モードでは、システムは先行車には反応しません。さらに、先行車の存在や車間距離が検出されないため、先行車に近づきすぎても接近警報が作動せず、アラームも鳴りません。先行車との安全な車間距離を維持してください。選択されているモードに常に注意してください。

再作動させるには

メモリに設定速度がある場合は、「RES (再開)」ボタンを押し、アクセル・ペダルから足を放します。インストルメント・パネル・ディスプレイに前回の設定速度が表示されます。

復帰機能は、定速クルーズ・コントロール使用中のみ、32km/h (20mph) を超える速度で使用できます。

復帰機能は、ACC の作動時は 0km/h (0mph) を超える速度で使用できます。

警告!

復帰機能は、交通状況と路面状態に注意して使用してください。設定速度が速すぎたり遅すぎたりするときに復帰機能を使用すると、そのときの交通量や路面状況によっては、車速を急に上げたり落としたりすることになるため危険です。ここに示す警告に従わないと、衝突事故や死亡または重傷につながる恐れがあります。

設定速度を変更するには

設定速度を増減させるには

速度の設定後、「SET (設定) (+)」ボタンを押すと、設定速度が上がります。「SET (設定) (-)」ボタンを押すと、設定速度が下がります。

ACC での車間距離の設定

バー 4 本 (最長距離)、バー 3 本 (長距離)、バー 2 本 (中距離)、バー 1 本 (短距離) の間で距離設定を変化させて、ACC の指定車間距離を設定できます。ACC は、この距離設定値と車速を基に、先行車との車間距離を計算して設定します。インストルメント・パネル・ディスプレイ内に距離設定値が表示されます。

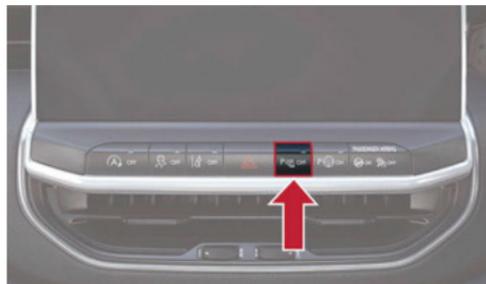
距離設定を長くするには、「Distance Increase (距離延長)」ボタンを押して放します。このボタンを押すたびに、距離設定はバー 1 本ずつ増加 (延長) します。

距離設定を短くするには、「Distance Decrease (距離短縮)」ボタンを押して放します。このボタンを押すたびに、距離設定はバー 1 本ずつ減少 (短縮) します。

パーキング・アシスト

PARKSENSE フロント／リヤ・パーキング・アシスト・システム - タイプ別装備

Uconnect ディスプレイ下のスイッチ・パネルにある ParkSense スイッチを使って、ParkSense システムを有効または無効にできることをご存じでしたか？



ParkSense スイッチ

警告!

- 運転者は、ParkSense を使用している場合でも、バックの際に注意を怠らないでください。常に車両の後ろを注意深く確認し、自分の後方を見て、バックする前に歩行者、動物、他の車両、障害物、および死角を確認してください。安全な運転を心がけ、周囲の確

(続き)

警告!

認を怠らないようにします。これを怠ると、重傷や死亡事故につながる恐れがあります。

- 車両をけん引目的に使用していないときは、ParkSense を使用する前に、ボール・マウントおよびヒッチ・ボールのアセンブリを取り外すことを強くお勧めします。そうしないと、連続的な警告音が鳴ったときにはヒッチ・ボールがリヤ・フェイスア／バンパよりも障害物に近づいているため、負傷したり、車両または障害物が破損したりする危険があります。また、ボール・マウントおよびヒッチ・ボールのアセンブリのサイズと形状によっては、車両の後方にある障害物としてセンサが誤認する場合があります。

注意!

- ParkSense は、あくまでも駐車をアシストするためのものであり、小さな物体など、すべての障害物を検知できるわけではありません。駐車用の緑石は、一時的に検知されたり、まったく検知されなかったりすることがあります。センサ上または下にある障害物は、すぐそばにある場合は検知されません。
- 障害物が検知されたらすぐに停止できるように、ParkSense 使用中はゆっくりと運転してください。ParkSense の使用中でも、肩越しに後ろを確認しながら運転することをお勧めします。

電動パーキング・ブレーキ (EPB)

車両には、EPB システムが装備されています。このシステムは簡単に操作できるばかりでなく、パーキング・ブレーキをより便利かつ使いやすくする機能をいくつか備えています。

駐車中に車両が動かないようにすることが、パーキング・ブレーキの主な目的です。車から降りるときは、必ずパーキング・ブレーキをかけてください。また、トランスミッションを「P(パーキング)」レンジに入れたままにしておいてください。

パーキング・ブレーキをかけるには、次の 2 つの方法があります。

- 手で「EPB」スイッチを入れます。
- 「Uconnect Settings (Uconnect 設定)」の「Customer Programmable Features (ユーザー選択機能)」のセクションで、「Auto Park Brake (自動パーキング・ブレーキ)」機能を有効にすると、自動的にパーキング・ブレーキが作動します。

「EPB」スイッチはセンタ・コンソールにあります。



EPB スイッチ

手でパーキング・ブレーキをかけるには、このスイッチを少し引き上げます。パーキング・ブレーキが完全に固定されると、インストルメント・パネルのブレーキ警告灯とスイッチの表示灯が点灯します。ブレーキ・ペダルを踏みながらパーキング・ブレーキをかけると、ブレーキ・ペダルがわずかに動くのがわかります。イグニッション・スイッチが「OFF（オフ）」であるのにブレーキ警告灯が点灯しない場合でも、パーキング・ブレーキをかけることができます。ただし、イグニッション・スイッチが「ON/RUN（オン/走行）」位置にあるときしか解除できません。

メモ：

EPB スイッチを 60 秒以上解除または作動のいずれかの位置にしたままにすると、EPB 警告灯が点灯します。スイッチを放すと、この警告灯は消灯します。

自動パーキング・ブレーキ機能を有効にすると、トランスミッションを「P（パーキング）」に入れると、パーキング・ブレーキが自動的に作動します。ブレーキ・ペダルを踏んでい

る場合、パーキング・ブレーキがかかるときに、ブレーキ・ペダルがわずかに動くのがわかります。

イグニッション・スイッチを「ON（オン）」にし、トランスミッションを「D（ドライブ）」または「R（リバース）」に入れ、運転席のシートベルトを装着し、車両の走行を試みると、パーキング・ブレーキは自動的に解除されます。

手でパーキング・ブレーキを解除するには、イグニッション・スイッチを「ON/RUN（オン/走行）」位置にする必要があります。ブレーキ・ペダルを踏み、「EPB」スイッチを短く押し下げます。また、ブレーキ・ペダルがわずかに動くのがわかります。パーキング・ブレーキを完全に解除すると、インストルメント・パネルのブレーキ警告灯とスイッチのLED 表示灯が消灯します。

メモ：

坂道で駐車するときは、下り坂では前輪を縁石側へ向け、上り坂では車線中央側へ向けて駐車することが重要です。ギヤ・セレクトを「P（パーキング）」に入れる前にパーキング・ブレーキをかけてください。そうしないと、トランスミッションのロック機構にかかる負荷で、ギヤ・セレクトが「P（パーキング）」から抜けにくくなる場合があります。車を離れるときは、必ずパーキング・ブレーキをかけてください。

警告！

- リヤ・ブレーキが水または泥に浸かった場合は、パーキング・ブレーキが十分に作動しない場合があります。
- 絶対にパーキング・ブレーキの代用として「P（パーキング）」位置を使用しないでください。車が動かないよ

(続き)

警告！

うに、また人身事故や物損を防止するため、駐車時には必ずパーキング・ブレーキを確実にかけてください。

- 車を離れるときは常に、キー・フォブを携帯し、車をロックしてください。
- お子さまだけを車内に残して車を離れないでください。またお子さまが、ロックされていない車に触れることのないようにしてください。お子さまを車内に残して車から離れることは、非常に危険です。お子さまだけでなく第三者にもけがを負わせる恐れがあります。お子さまがパーキング・ブレーキ、ブレーキ・ペダルまたはギヤ・セレクトに触れないように注意してください。
- キー・フォブを車内または車の近くに、またはお子さまの手が届く場所に放置しないでください。また、Keyless Enter-N-Go™搭載車では、イグニッションを「ACC」または「ON/RUN（オン/走行）」位置のままにして車から離れないでください。お子さまがパワー・ウィンドウやその他の装置を操作したり、車を動かしてしまう恐れがあります。
- 運転する前にパーキング・ブレーキを完全に解除してください。解除が不十分な場合、ブレーキの故障および衝突事故につながる恐れがあります。
- 車から離れるときは、パーキング・ブレーキを確実にかけてください。車が動き出し破損またはけがを引き起こす恐れがあります。また、セレクトを「P（パーキング）」レンジに入れたままにしておいてください。そうしない場合、車が動き出して破損またはけがを引き起こす恐れがあります。

注意!

パーキング・ブレーキを解除してもブレーキ警告灯が点灯したままの場合、ブレーキ・システムに不具合があることを示しています。直ちにジープ正規ディーラーでブレーキ・システムを修理してください。

車両が動いている間にパーキング・ブレーキをかけなければならない状況では、必要なだけ EPB スイッチに上向き力をかけ続けます。ブレーキ警告灯が点灯し、警告チャイムが鳴り続けます。車両が動いている間は、リヤ制動灯も自動的に点灯します。

車両の移動中にパーキング・ブレーキを解除するには、スイッチを放します。パーキング・ブレーキを使用して車両を完全に停止させる場合、車両が約 5km/h(3mph)になるとパーキング・ブレーキは作動したままになります。

警告!

パーキング・ブレーキをかけたままで車を走行させたり、減速するためにくり返しパーキング・ブレーキを使用すると、ブレーキ・システムに重大な損傷が発生することがあります。これにより、ブレーキの故障および衝突事故につながる恐れがあります。

EPB システムに異常が発生すると、黄色の EPB 警告灯が点灯します。これにより、ブレーキ警告灯が点滅する場合もあります。異常が発生した場合は、EPB システムの緊急整備が必要です。車両の停止を維持するために、パーキング・ブレーキを使用しないでください。

エクステリアの概要



1 - エクステリア・カメラの位置 ⇨ ページ 24

2 電子リフトゲート・リリース・ハンドル ⇨ ページ 26

3 - フューエル・リッド ⇨ ページ 26

4 - 緊急用けん引フック ⇨ ページ 38

エクステリア・カメラの表示

カメラの手動操作

リア・バックアップ・カメラまたはサラウンド・ビュー・カメラ(タイプ別装備)は、ギヤ・セレクトをリバースに入れると、車両の後方周囲を表示します。サラウンド・ビュー・カメラは、後退時にトップ・ビュー・カメラの映像も表示します。

カメラの手動起動:

1. Uconnect ディスプレイの下部にある「Vehicle(車両)」ボタンを押して「Camera(カメラ)」メニューを選択します。
2. リア・ビュー・カメラ・システムを ON にするには、「Back Up Camera(後方カメラ)」ボタンを押します。

3.



タッチスクリーンでこのボタンを押すと、Uconnect システムのサラウンド・ビュー・カメラ・メニューに入ります。そこからさまざまなカメラにアクセスできます。

警告!

ParkView リア・バックアップ・カメラまたはサラウンド・ビュー・カメラを使用している場合でも、車両をバックさせる

(続き)

警告!

ときは注意が必要です。常に車両の後ろを注意深く確認し、バックする前に歩行者や動物、他の車両、障害物がないか注意し、死角を確認してください。周囲の安全に注意を払い、バックする際には常に注意する必要があります。これを怠ると、重傷や死亡事故につながる恐れがあります。

注意!

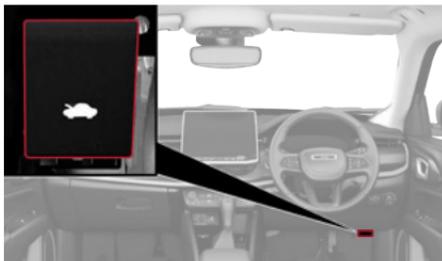
- 車両の損傷を防ぐために、ParkView リア・バックアップ・カメラおよびサラウンド・ビュー・カメラは駐車補助装置としてのみ使用してください。リア・バックアップ・カメラでは、進路上のすべての障害物や物体を検知できるわけではありません。
- 車両の損傷を防ぐため、ParkView リア・バックアップ・カメラまたはサラウンド・ビュー・カメラの使用中は、障害物を検知した場合に停止できるようにゆっくり走行してください。カメラの使用中でも、肩越しに後ろを頻繁に確認しながら運転することをお勧めします。

ボンネット

ボンネットを開けるには

ボンネットを開けるには2つのラッチを外す必要があります。

1. インストルメント・パネルの運転席側の下にあるボンネット・リリース・レバーを引きます。



ボンネット・リリースの位置(インストルメント・パネルの下)

2. 車外でボンネットの下に手を入れ、安全ラッチを左に動かして、ボンネットを持ち上げます。



ボンネット安全ラッチ・リリース・レバーの位置

メモ:

- 車両が静止し、ギヤ・セレクトが「P(パーキング)」に入っている必要があります。

- ボンネットを上げる前に、ワイパ・アームが作動状態ではなく、上昇位置にないことを確認してください。
- ボンネットを上げるときは、両手を使用してください。
- うまくいかない場合は、ボンネットを若干押し下げてから、安全ラッチを押してください。

ボンネットを閉じるには

1回の連続動作で、ボンネットの先端を適度な力で引き下げ、ガス式ストラットの抵抗がなくなると、ボンネットは自重で下ります。

警告!

車両を運転する前に、ボンネットのラッチが完全にかかっていることを確認してください。ボンネットがラッチでしっかりと固定されていないと、走行中にボンネットが開き、視界を遮る恐れがあります。ここに示す警告内容に従わないと、重傷や死亡事故につながる恐れがあります。

注意!

ボンネットを乱暴に閉めないでください。ボンネットが損傷する恐れがあります。ボンネットは、約10~14インチ(30~36cm)までゆっくり下ろしてから、手を放して閉めます。ボンネットが確実に閉まり、ラッチが固定されていることを確認してください。ボンネットが確実に閉まっておらず、ラッチが固定されていない状態では、絶対に車を運転しないでください。

リフトゲート

リフトゲートの解錠／リフトゲートを開ける

リフトゲートは以下のいずれかの方法で開けることができます。

- キー・フォブのリフトゲート・ボタンを押す
- カーゴ・エリアのリフトゲート・ボタンを押す
- リフトゲートにあるリリース・ボタンを押す
- オーバーヘッド・コンソールのボタンを押す
- ハンズ・フリー・リフトゲートの作動ゾーンの下でキック動作をする

オーバーヘッド・コンソールのスイッチおよびリフトゲート・キー・フォブ・ボタン(タイプ別装備)を使用する場合、リフトゲートの施錠／解錠状態にかかわらずリフトゲートを開けることができます。車外のハンドルを使用する場合、開ける前にリフトゲートが解錠されている必要があります。



リフトゲートの解錠

リフトゲートの解錠

リフトゲートの解錠には、キー・フォブまたは車内のドア・パネルにあるドア・ロック解除ボタンを使用してください。手でドアを解錠しても、リフトゲートは解錠されません。

警告!

リフトゲートを開けたまま運転すると、有毒な排ガスが車内に侵入する恐れがあります。この排気ガスによって運転者や同乗者の健康が損なわれることがあります。走行中はリフトゲートを必ず閉めてください。

注意!

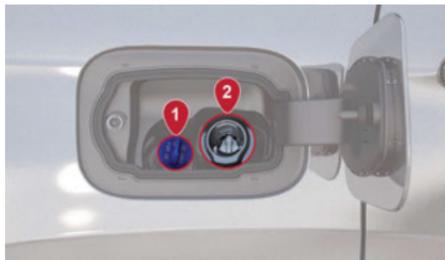
リフトゲートが開位置にあるときにリフトゲートを支えている左右ダンパに高圧ガスが封入されています。ダンパを分解したり、火中に入れたりしないでください。

車両の給油 — ディーゼル・エンジン

キャップレス給油システムは、燃料タンクの給油パイプにあるフラップを使用します。このフラップは、給油ノズルの出し入れによって自動で開閉します。キャップレス給油システムは、誤った種類の燃料の補給を防ぐための仕組みです。

1. キー・フォブまたは運転席ドア・トリム・パネルの「ロック解除」ボタンを押して、フューエル・フィラ・リッドのロックを解除します。
2. フューエル・リッドの外側の端を押して、フューエル・フィラ・リッドを開きます。
3. 給油口キャップはありません。パイプ内側のフラップによってシステムは密閉されています。

4. 給油パイプの中に給油ノズルをいっぱいまで差し込みます。給油中はノズルによりフラップが開かれ、保持されます。



フューエル・フィラ

1 - AdBlue®(尿素水)フィラ・キャップ - タイプ別装備

2 - フューエル・フィラ

5. 燃料を給油します。フューエル・ノズルからカチッという音が聞こえるか、または給油が止まった時点で燃料タンクは満タンです。
6. フューエル・ノズルを取り外す前に、10 秒待って燃料をノズルから排出させます。
7. 給油ノズルを取り外して、給油口リッドを閉めます。

警告!

- フューエル・リッドが開いているときやタンクに給油しているときには、決して車内や車周辺にタバコなどの火気を近づけないでください。
- エンジン作動中は、絶対に給油しないでください。これはほとんどの国で違法であるため、この行為を行うと、「エンジン警告灯」が点灯します。
- 車内に置かれた携帯用容器に直接燃料を給油すると火事の原因になり、やけどをする恐れもあります。給油中はガソリン容器を車外に出し、地面に置いてください。

注意!

ディーゼル・エンジンの場合、EN 590 欧州仕様に従って、自動車用のディーゼル燃料のみ使用してください。他の製品や混合燃料を使用すると、修理できる範囲を超えてエンジンが損傷し、発生した損傷によって保証が無効になる恐れがあります。誤って他の種類の燃料をタンクに入れてしまった場合、エンジンを始動させないでください。タンクから燃料を完全に抜いてください。ごく限られた時間であってもエンジンを作動させてしまった場合は、燃料タンクから燃料を抜くだけでなく、それ以外の供給回路からも燃料を抜く必要があります。

ADBLUE®(UREA:尿素) — タイプ別装備

車両には、「UREA(尿素)」インジェクション・システムと選択触媒還元脱硝装置が搭載されており、排出ガス規制に適合しています。これら 2 つのシステムにより、ディーゼル排出ガス規制要件への準拠、そして同時に燃費の改善、ハンドリング、トルク、出力の向上が実現しています。AdBlue®(UREA:尿素)は長期間在庫の可能な非常に劣化の少ない製品です。32°C(90°F)未満の温度で保存する場合、1年間以上の品質保持期間があります。車両には、自動 AdBlue®ヒーター・システムが装備されており、-11°C(12°F)未満の気温におけるエンジン始動時でもシステムが正常に作動するようになっています。

AdBlue®(UREA:尿素)の保管

AdBlue®(UREA:尿素)は、長期保存可能な非常に安定した製品とされています。AdBlue®(UREA:尿素)を-12°C~32°C(10°C~90°F)の温度に保てば、1年以上保存できます。

AdBlue®(UREA:尿素)は、上記の最低温度では凍結します。たとえば、AdBlue®(UREA:尿素)は-11°C(12°F)以下で凍結することがあります。このシステムは、こうした環境でも作動するように設計されています。

メモ:

AdBlue®(UREA:尿素)を取り扱う際は、次の内容を認識しておくことが重要です。

- AdBlue®(UREA:尿素)に接触する容器や部品は、AdBlue®(UREA:尿素)に対応している必要があります。

す(プラスチックまたはステンレス鋼)。銅、黄銅、アルミニウム、鉄、ステンレス以外の鋼は AdBlue®(UREA:尿素)で腐食するため、避ける必要があります。

- AdBlue®(UREA:尿素)がこぼれた場合は、完全に拭き取る必要があります。

AdBlue®(UREA:尿素)の補充

予備条件

AdBlue®(UREA)は-11°C(12°F)未満の温度で凍結します。長期間車両をこの温度で放置しておく、補充が難しくなることがあります。このため、車両をガレージまたは暖かい環境に駐車して、補充前に尿素水が液体状態に戻るまで待つことを推奨します。

以下の手順に従ってください。

- 車両を平坦な場所に駐車し、イグニッションを「OFF(オフ)」位置にしてエンジンを停止させます。
- フューエル・リッドを開け、AdBlue®(UREA:尿素)フィラからキャップを緩めて取り外します。



フューエル・フィラ

- 1 - AdBlue®(尿素水)フィラ・キャップ
- 2 - フューエル・フィラ

ノズルによる補充

どの AdBlue®(UREA:尿素)販売店でも補充できます。

以下の手順に従ってください。

- AdBlue®(UREA:尿素)ノズルをフィラに差し込み、補充を開始し、最初に停止した時点で補充を終了させます(この停止は、AdBlue®(UREA:尿素)タンクがいっぱいになったことを示しています)。これ以上補充を続けしないでください。AdBlue®(UREA:尿素)がこぼれる恐れがあります。
- ノズルを引き抜きます。

補充後の作業

以下の手順に従ってください。

- キャップを時計回りいっぱい回して、AdBlue®(UREA:尿素)フィラに再び取り付けます。
- イグニッションを「RUN(走行)」にします(エンジンを始動する必要はありません)。
- 車両を動かす前に、インストルメント・パネルの表示がオフに切り替わるまで待ちます。この表示は、数秒からおよそ 30 秒まで続くことがあります。エンジンを始動して車両を動かすと、この表示はさらに長く続きます。これによりエンジンが作動しなくなることはありません。
- タンクが空の状態から AdBlue®(UREA:尿素)をいっぱい補充した場合は、エンジン始動前に 2 分間待機してください。

HELP ミラー - タイプ別装備



「HELP(自動)」ボタン

本車両には、事故および／または緊急時にサポートを提供する車載アシスタンス機能が備えられています。機能はUconnectシステムから管理されます。詳細な情報に関しては、車両に添付されている「ラジオに関する補足」を参照してください。

HELP 機能は次のように作動します。

- 車両に搭載された機器に大きな衝突が記録された場合に自動的に作動します。
- ルーム・ミラーにある「HELP(ヘルプ)」ボタンを押すか、Uconnectシステムから手動で作動させます。
- これを作動させると、緊急 HELP システムが専用のコール・センターに自動的に接続されます。本文中でHELPと記載されている場合は必ず、この他社のサービスと関連しています。

- HELP ボタンは、内蔵機能として装備される有効なLTE(音声／データ)または4G(データ)ネットワークに接続されていなければ機能しません。その他のUconnectサービスは、お客様が有効なLTE(音声／データ)または4G(データ)ネットワークに接続していなければ機能しません。

メモ：

システムが音声通話を確立できない、またはネットワーク対象範囲が不十分のため回線が切断される場合、HELPサービスは5分後にオペレータに再度電話しようとしてします。オペレータが再度車両と接続する必要がある場合、システムは着信を受信することができ、自動的に受信されません。Uconnect Servicesの加入契約が有効でない場合、通話はオペレータに接続されず、サービスが使用不可というメッセージが表示されます。

手動 HELP

1. ルーム・ミラーにある「HELP(ヘルプ)」ボタンを押すか、押し続けます。
2. HELP オペレータへの接続が確立されると、「HELP(ヘルプ)」ボタンの横にあるLED表示灯が緑色に変わります。

メモ：

- HELP 機能は、車両が始動して1分間は使用できない場合があります。
3. 車両とHELPオペレータとの間で接続が確立されると、HELPコールシステムはHELPオペレータに次の重要な車両情報を送信できます。

- 乗員がHELPコールを発信したという表示

- 車種
 - 識別された車両のGPS座標
4. 救援がさらに必要かどうかを確認するために、車両のオーディオシステムを介してHELPオペレータと会話できるようにする必要があります。

警告!

必ず交通法規を遵守し、道路の状況に注意を払ってください。ステアリング・ホイールは両手で操作し、常に安全運転を心がけてください。この車のUconnectの機能およびアプリケーションの使用に関する責任およびリスクはすべてお客様が負うものとします。この機能と用途は、安全に使用できる場合にのみ使用してください。注意をそらすと、重傷または死亡を伴う事故が起こるおそれがあります。

メモ：

- 車両は、加入者の権限に応じてデータを送信することができます。
- 車両に搭載されているHELPコールシステムとHELPオペレータとの間の接続が確立すると、HELPオペレータは、車両との音声接続を開き、救援がさらに必要かどうかを確認できます。HELPオペレータが車両のHELPコールシステムとの音声接続を開いたら、オペレータは運転者またはその他の乗員と会話して、車内の音を聞き取れるようにする必要があります。車両のHELPコールシステムは、HELPオペレータが接続を終了する

まで、HELP オペレータとの接続を維持しようとします。

- HELP オペレータは、必要な緊急対応先に連絡し、対応先の担当者に重要な車両情報および GPS 座標を伝えます。

メモ:

誤って「HELP Call (HELP コール)」ボタンを押してしまっても、HELP コール・システムが緊急サービス・エージェントへの呼び出しが開始する前に 10 秒間の遅延があります。HELP コールへの接続を取り消すには、ルーム・ミラーの「HELP Call (HELP コール)」ボタンを押すか、電話の画面上的キャンセル・ボタンを押してください。HELP コールを中止すると、ルーム・ミラー上の緑色の LED 表示灯が消灯します。

警告!

- 乗員に危険が及ぶ恐れがある場合(火災や煙の発見、危険な道路条件や場所など)は、直ちに緊急サービス・エージェントに電話をかけてください。すべての乗員は直ちに車から離れて安全な場所に移動する必要があります。
- 車両の動作可能なネットワークおよび GPS アンテナの上または近くには何も置かないでください。動作可能なネットワークおよび GPS 信号を受信できなくなり、車両が緊急通話を発信できなくなります。動作可能なネットワークおよび GPS 信号の受信は、SOS コール・システムが正常に機能するのに必要です。

(続き)

警告!

- HELP コール・システムは車両の電気システムに組み込まれています。車両の電気システムに市販の電装品を追加しないでください。これにより、緊急通話を開始する信号を車両が送信できなくなる恐れがあります。HELP コール・システムが機能しなくなる干渉を避けるために、アクセサリ部品(移動式双方向無線機、CB 無線機、データ・レコーダなど)を車両の電気システムに追加したり、車のアンテナを改造したりしないでください。事故時や事故後を含むいかなる理由にせよ、車両バッテリーの充電が消耗した場合、Uconnect 機能(特にアプリケーションとサービス)は動作しません。
- HELP コール・システムを改造すると、万一のときにエアバッグ・システムが作動しなくなるおそれがあります。必要ときにエアバッグ・システムが作動せず、負傷する恐れがあります。

ジャッキ・アップとタイヤ交換 - タイプ別装備

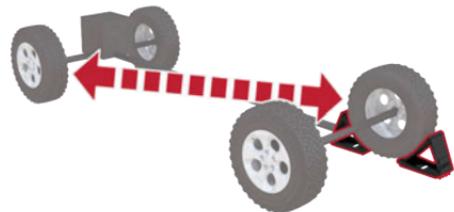
ジャッキ作業の準備

- 車両をなるべく道路から離れた固く平らな場所に停車させます。道路の「待避所」でタイヤを交換する場合は、後続車両に警告するため三角表示板(装備されている場合)を使用してください。凍結していたり、滑りやすい場所は避けてください。

警告!

車道側にあるタイヤの交換は行わないでください。ジャッキ操作やタイヤ交換は、作業中に事故に遭わないよう、車道から十分離れた安全な場所で行ってください。

- 非常点滅表示灯を点灯します。
- パーキング・ブレーキをかけます。
- ギヤ・セレクトを、オートマチック・トランスミッションの場合は「P(パーキング)」位置、マニュアル・トランスミッションの場合は「R(リバース)」位置に入れます。
- イグニッションを「OFF(オフ)」位置にします。
- ジャッキで持ち上げるタイヤの対角線上に位置するタイヤの前後をブロックで輪留めします。たとえば、左フロント・ホイールを交換する場合は、右リア・ホイールをブロックで輪留めします。



ブロックによるホイールの輪留め例

メモ:

車を持ち上げる時は、乗員に車から降りてもらってください。

ジャッキ／スペア・タイヤの収納場所

装備している場合、スペア・タイヤ、ジャッキおよび工具は、リア・カーゴ・エリアのロード・フロアの下側に収納されています。

1. リフトゲートを開けます。
2. ロード・フロア・ハンドルを見つけ、上に引いて取り外します。



ラゲッジ・フロア・ハンドル

3. スペア・タイヤを固定しているファスナを取り外し、車両からスペア・ホイールを取り外します。
4. 中央のアライメント・ピンを取り外し、ジャッキを反時計回りに回して発泡スチロール製トレイから持ち上げます。

5. ジャッキと必要な工具を取り外します。

警告!

タイヤまたはジャッキが固定されていないと、衝突または急停止の際に前方へ投げ飛ばされ、乗員がけがををする危険性があります。ジャッキ部品およびスペア・タイヤは、必ず指定の場所に収納してください。空気の抜けた（パンクした）タイヤは、すぐに修理または交換してください。

ジャッキ作業の手順

警告!

人身事故または物損事故を防ぐためにタイヤ交換時の警告に従ってください。

- 車道脇からできるだけ離れた固く平らな地面に駐車してから、車を持ち上げるようにしてください。
- 非常点滅表示灯を点灯します。
- 持ち上げる車輪の対角線上に位置する車輪をブロックで輪留めます。
- パーキング・ブレーキをしっかりとかけ、トランスミッションを「P（パーキング）」に入れます。
- ジャッキで持ち上げた車のエンジンは始動させないでください。
- ジャッキで持ち上げられた車には人がいないようにしてください。

(続き)

警告!

- ジャッキで持ち上げられた車の下に入らないようにしてください。入る必要がある場合は、リフトが設置されているガソリン・スタンドなどをご利用ください。
- ジャッキは指定された位置に設置し、本車両を持ち上げてタイヤを交換する場合にのみ使用してください。
- 車道またはその近辺で作業を行う場合は、交通に十分注意してください。
- スペア・タイヤは空気圧の状態にかかわらず確実に固定されるように、バルブ・システムを下向きにして収納する必要があります。
- ジャッキは緊急用の道具です。メンテナンスには使用しないでください。ジャッキ・ハンドルを無理に回すと、ジャッキ・ハンドル・バーとジャッキの接続部が外れて車両を損傷する恐れがあります。ゆっくり、慎重に作業してください。

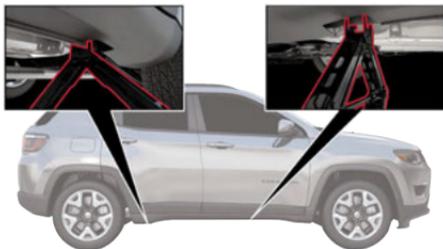


ジャッキ警告ラベル

1. スペア・タイヤ、ジャッキ、ホイール・ボルト・レンチを取り出します。
2. ホイール・ボルトを覆うセンタ・キャップが付いているアルミ・ホイールが装着されている場合は、車両を上げる前にホイール・ボルト・レンチを使用して慎重にセンタ・キャップを外します。
3. 車両を上げる前に、ホイール・ボルト・レンチを使用してパンクしたタイヤのボルトを緩めます。ただし、取り外さないでください。ホイールが地面に着いている状態で、ボルトを反時計回りに1回転させて緩めます。

メモ：

フロントおよびリヤのジャッキ配置場所は非常に重要です。正しいジャッキ位置については、下図を参照してください。



リフト・ポイント

注意!

この車のジャッキ作業の手順で指定されている位置以外にジャッキを置いて車両を持ち上げないでください。

4. パンクしたタイヤになるべく近いリフト・ポイントの下にジャッキを置きます。ジャッキ・スクリュを時計回りに回して、ジャッキ・サドルとリフト・ポイントのシル・フランジがしっかりと合まるようにしてください。このとき、シルの凸部の切り込み部分の内側にジャッキ・サドルを合わせます。



フロント側ジャッキ位置



リヤ側ジャッキ位置

5. 車体はパンクしたタイヤを取り外すために必要な高さだけ持ち上げてください。

警告!

車体を必要以上に高く持ち上げると不安定になり、ジャッキからずり落ちるのに危険です。車がジャッキから滑り落ちて、近くにいる人がけがをする恐れがあります。車体はタイヤを取り外すために必要な高さだけ持ち上げてください。

6. ホイール・ボルトとタイヤを取り外します。
7. スペア・タイヤを装着しやすくするには、ジャッキ・アセンブリからアライメント・ピンを外して、ホイール・ハブにアライメント・ピンをねじ込みます。
8. スペア・タイヤを取り付けます。

注意!

スベア・タイヤは、パルプ・ステムが外側にくるように取り付けてください。スベア・タイヤが正しく取り付けられていないと、車両が損傷することがあります。

メモ:

センタ・キャップやホイール・カバーが装備されている場合、それらはコンパクト・スベアには取り付けられません。

9. ホイール・ボルトを取り付け、軽く締めめます。

警告!

力を加えると車がジャッキから滑り落ちる恐れがあるため、車体を降ろすまでホイール・ナットは完全に締め付けしないでください。この警告に従わないと、重傷を負う恐れがあります。

10. ジャッキ・ハンドルを反時計回りに回して車両を降ろします。
11. ホイール・ボルトを締め付けます。力を加えやすいように、ハンドルの端を持ってレンチを押し下げます。ホイール・ボルトを対角順に2回に分けて締め付けます。トルク値が正しいかどうか不安な場合は、ジープ正規ディーラーまたはガスソリン・スタンドで、トルク・レンチを使用して点検してください。
12. ジャッキが自由に動くまで下げます。輪留め用のブロックを取り外します。ホイール・ナット・レンチをジャッキ・アセンブリに組み立て直し、スベア・タイヤ・エア

アに収納します。指定されている方法で、アセンブリを固定します。走行前にパーキング・ブレーキを解除します。

13. 40km(25マイル)走行後に、トルク・レンチを使用して、ホイール・ボルトのトルクを点検し、すべてのホイール・ボルトがホイールに正しく装着されていることを確認してください。
14. 発泡スチロール製トレイの上にジャッキを置き、十分に開いて固定します。所定の位置に置いたら、時計回りに回して固定します。アライメント・ピンをセンタ・ホールの中に戻し、ジャッキを所定の位置に固定します。

警告!

タイヤまたはジャッキが固定されていないと、衝突または急停止の際に前方へ投げ飛ばされ、乗員がけがをする危険性があります。ジャッキ部品およびスベア・タイヤは、必ず指定の場所に収納してください。空気の抜けた(パンクした)タイヤは、すぐに修理または交換してください。

タイヤ・サービス・キット — タイプ別装備

この車両にはタイヤ・サービス・キットが装備されています(タイプ別装備)。

タイヤ修理キットでは、タイヤ・トレッドに開いた6mm(1/4インチ)までの小さいパンク穴を塞ぐことができます。ネジや釘などの異物はタイヤから除去しないでください。タイヤ・サービス・キットは、外の気温が約-20°C(-4°F)まで下がっても使用可能です。

このキットにより一時的にタイヤをシールして、最高速度80km/h(50mph)で最長160km(100マイル)まで車両を走らせることができます。

タイヤがパンクした場合は、タイヤ修理キットを使って応急修理ができます。

ジャンプ・スタート

バッテリーが放電した場合には、ジャンプ・ケーブルを他の車両のバッテリーに接続するか、補助バッテリーを使用して、ジャンプ・スタートを行うことができます。ジャンプ・スタートは正しく行わないと危険です。このセクションの手順を遵守してください。

メモ:

補助バッテリーを使用する場合は、メーカの取扱説明書ならびに注意事項を遵守してください。

警告!

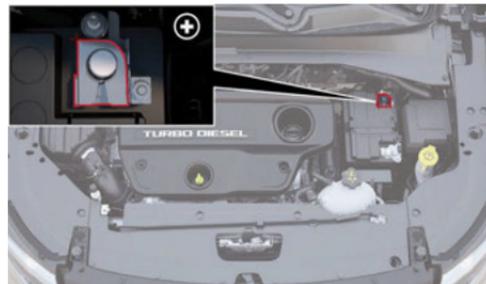
バッテリーが凍結している場合は、ジャンプ・スタートを行わないでください。バッテリーが破裂または爆発してけがをする恐れがあります。

注意!

12Vを超える補助バッテリーや他の補助電源を使用しないでください。使用した場合、バッテリー、スタータ・モータ、オルタネータ、または電気系統が損傷する恐れがあります。

ジャンプ・スタートの準備

バッテリーは、エンジン・ルーム内、左ヘッドライト・アッセンブリの後ろにあります。



バッテリーのプラス(+)端子

メモ：

バッテリーのプラス端子には保護キャップが付いています。端子の作業をするときは、キャップを持ち上げます。

以下の手順を参照してジャンプ・スタートの準備を行います。

1. パーキング・ブレーキをかけ、オートマチック・トランスミッションを「P(パーキング)」位置(マニュアル・トランスミッションの場合は「N(ニュートラル)」)にシフトして、イグニッション・スイッチを「OFF」位置にします。
2. ヒータ、ラジオなど、電装品をすべて OFF にします。
3. 他の車両のバッテリーに接続してジャンプ・スタートを行う場合は、ジャンプ・ケーブルが届く位置に救援車両

を停車してパーキング・ブレーキをかけ、必ずイグニッション・スイッチを「LOCK」位置にします。

警告!

アースがつながって、けがを負う恐れがあるので、車両同士が接触しないように注意してください。

警告!

- ボンネットが開いているときは、ラジエタの冷却ファンに触れないように気を付けてください。イグニッション・スイッチが ON になると、直ちに始動します。回転するファン・ブレードで、けがをする恐れがあります。
- 感電の恐れのある腕時計およびプレスレットなどの金属製装身具は外してください。重傷につながる恐れがあります。
- バッテリーには、皮膚および目に触れるとやけどの原因となる硫酸が含まれています。また硫酸は、可燃性および爆発性の水素ガスを発生させる恐れもあります。バッテリーの近くに火または火気を近づけないでください。

ジャンプ・スタートの手順

警告!

このジャンプ・スタート手順に従わないと、バッテリーが発火してけがを負うか、物損事故につながる恐れがあります。

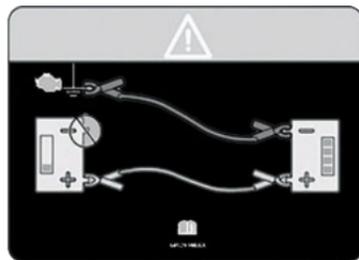
注意!

この手順に従わないと、救援車両または故障車両の充電システムを損傷する恐れがあります。

ジャンプ・ケーブルの接続

1. ジャンプ・ケーブルのプラス(+)側を、故障車両のバッテリーのプラス(+)端子に取り付けます。
2. プラス(+)のジャンプ・ケーブルのもう一方を、補助バッテリーのプラス(+)端子に接続します。
3. ジャンプ・ケーブルのマイナス(-)側を、補助バッテリーのマイナス(-)端子に取り付けます。

4. マイナス(-)のジャンパ・ケーブルのもう一方の端部を、エンジン・アースに正しく取り付けます。アースとは、アクセサリ・ブラケットや大径ボルトなどエンジン、フレーム、シャーシの露出した金属/未塗装の部分のことです。アースは、バッテリーやフューエル・インジェクション・システムから離れていなければなりません。



適切なエンジン・アース(例)

警告!

放電したバッテリーのマイナス(-)端子にジャンパ・ケーブルを接続しないでください。電気火花が発生するとバッテリーが爆発してけがを負う恐れがあります。

5. 救援車のエンジンを始動させ、エンジンを数分間アイドリングします。次にバッテリーが放電した車両のエンジンを始動します。
6. エンジンが始動したら、ジャンパ・ケーブルを逆の順序で取り外します。

ジャンパ・ケーブルの取り外し

1. ジャンパ・ケーブルのマイナス(-)側を、故障車両のエンジン・アース部から取り外します。
2. マイナス(-)ジャンパ・ケーブルの反対側を、補助バッテリーのマイナス(-)端子から取り外します。
3. ジャンパ・ケーブルのプラス(+)側を、補助バッテリーのプラス(+)端子から外します。
4. プラス(+)ジャンパ・ケーブルの反対側を、救援車両のバッテリーのプラス(+)端子から外し、保護キャップを再度取り付けます。

ジャンパ・スタートを頻繁に行う必要がある場合は、ジープ正規ディーラーでバッテリーおよび充電系統の点検を受けてください。

注意!

車両の電源コンセントに接続するタイプのアクセサリ(携帯機器など)は、使用していなくてもバッテリー電源を消耗します。エンジンがかかっている状態で長時間プラグを差し込んだままにしておく、車のバッテリーが放電してバッテリーの寿命を縮めたり、エンジン始動に支障をきたすことがあります。

スタックからの脱出

泥、砂、または雪の中で動きが取れない場合、車を前後に揺り動かすと脱出できることがよくあります。ステアリング・ホイールを左右に回して、フロント・タイヤ周辺から障害物を取り除きます。オートマチック・トランスミッション装備車の場合、ギヤ・セレクタのロック・ボタンを押し続けます。次

に、アクセル・ペダルを少し踏み込みながら、「D(ドライブ)」と「R(リバース)」(オートマチック・トランスミッションの場合)の間、または2速ギヤと「R(リバース)」(マニュアル・トランスミッションの場合)の間でシフトをくり返します。

メモ:

オートマチック・トランスミッション装備車の場合、「D(ドライブ)」と「R(リバース)」間のシフトは、ホイール速度が8km/h(5mph)以下でのみ可能です。トランスミッションが2秒間を超えて「N(ニュートラル)」に入っている場合は、必ずブレーキ・ペダルを踏んで「D(ドライブ)」または「R(リバース)」に入れなければなりません。

タイヤを空転させたり、エンジンを空吹かししないで車両を前後に揺り動かし続けることができるように、少しだけアクセル・ペダルを踏みます。

警告!

タイヤの高速空転は危険です。過度のホイール回転速度によって生じる力でアックスルおよびタイヤの破損または故障が発生する恐れがあります。タイヤが破裂し、人にけがを負わせる場合もあります。ぬかるみなどで動かなくなった場合は、車のタイヤを48km/h(30mph)を超える速度で、または30秒以上連続して空転させないでください。また、回転速度に関係なく、空転しているタイヤ付近に人が近づかないようにしてください。

メモ:

車両を揺り動かす前に、必要に応じて、「ESC OFF(ESC オフ)」ボタンを押し、エレクトロニック・スタビリティ・コントロール(ESC)システムを「パーシャル OFF」モードに切り替えます。車両がスタックから脱出したら、「ESC OFF(ESC オフ)」ボタンをもう一度押して、「ESC ON」モードに戻します。

注意!

- エンジンの高回転やタイヤの空転は、トランスミッションの過熱および故障の原因になる恐れがあります。この前後に揺する動きを5回行う度に、トランスミッションを「N(ニュートラル)」に入れて、1分以上、エンジンをアイドリングさせてください。これにより、立ち往生した車を長時間かけて脱出させる場合に、クラッチやトランスミッションが過熱したり、故障したりする危険性を低減します。
- 立ち往生した車を、「D(ドライブ)」「2速ギヤ」と「R(リバース)」を交互にシフト・チェンジしながら「揺り動かして」スタック状態から脱出させる場合、24km/h(15mph)以上の速度で車輪を回転させないでください。駆動装置が破損する恐れがあります。
- エンジンの高回転やタイヤの空転は、トランスミッションの過熱および故障につながる恐れがあります。また、タイヤの損傷の原因にもなります。ギヤを入れた状態で48km/h(30mph)を超える速度でタイヤを空転させないでください(トランスミッションは変速しません)。

走行不能車両のけん引

このセクションでは、走行不能車両を一般のけん引サービースを使用してけん引する手順について説明します。

けん引の条件	地面から離れている車輪	FWD モデル	4X4 モデル
4輪すべてが地面に着いている状態でけん引	なし	禁止	禁止
ホイール・リフト装置またはけん引用台車	リヤ	禁止	禁止
	フロント	可能	禁止
フラットベッド	すべて	最適な方法	最適な方法

車両の損傷を防ぐには、適切なけん引またはリフト装置を使用する必要があります。専用のけん引バーおよび他の装置のみを装置メーカーの指示に従って使用してください。必ず安全チェーンを使用します。けん引バーまたは他のけん引装置を、車両の主要構造部材に取り付けます。フェイス/バンパや関連するブラケットには取り付けしないでください。車両のけん引に関する法令を遵守してください。

メモ:

- 車両けん引時には、不用意にエレクトロニック・パーキング・ブレーキが作動しないように、自動パーキング・ブレーキ機能が解除されていることを必ず確認してください。自動パーキング・ブレーキ機能は、「Uconnect

Settings(Uconnect の設定)」のユーザー選択機能で有効または無効にすることができます。

- バッテリーが放電した車両、または電動パーキング・ブレーキ(EPB)が作動しているときに電気系統全体に及ぶ不具合が発生した車両をフラットベッドに載せるには、けん引用台車またはジャッキを使用して後輪を持ち上げる必要があります。

けん引中にアクセサリ(ワイバ、デフロスタなど)の使用が必要な場合、イグニッションは「ON/RUN(オン/走行)」モードにしてください。

運転席ドアが開いていると(バッテリーが接続され、イグニッションが「ON」位置にあり、トランスミッションが「P(パーキング)」に入っておらず、ブレーキ・ペダルが踏まれていない場合)、常にセーフホールド機能が作動するので注意してください。イグニッションを「ON/RUN(オン/走行)」モードにしてこの車両をけん引する場合、運転席ドアを開けるたびにブレーキ・ペダルを踏み、EPBを解除して、エレクトロニック・パーキング・ブレーキを手動で無効にする必要があります。

注意!

- けん引時は、スリング・タイプの装備を使用しないでください。車両が損傷する恐れがあります。
- 車両をフラット・ベッド・トラックに固定する場合は、フロントまたはリヤ・サスペンション構成部品で固定しないでください。不適切にけん引すると、車両を損傷する恐れがあります。

(続き)

注意!

- けん引中は、エレクトロニック・パーキング・ブレーキを解除し、解除された状態が維持されていることを確認してください。
- フェイシア／バンパ取り付けのクランプ式けん引バーはこの車に取り付けないでください。フェイシア／バンパ・フェース・バーが損傷します。

イグニッション・キー・フォブがない場合

イグニッションをオフ・モードにして車をけん引する場合は、特別な注意が必要です。キー・フォブがない場合、フラット・ベッド・トラックを使用する以外のけん引方法は認められません。車両への破損を防ぐには、適切なけん引装置を使用する必要があります。

前輪駆動車(FWD)モデル - キー・フォブ付き

FCA では、フラット・ベッドを使用し、4 輪すべてを**地面に接触させない**でけん引することを推奨します。

フラット・ベッド装置を利用できない場合は、車両は必ず前輪を**持ち上げて**(けん引用台車またはホイール・リフト装置を使用して前輪を持ち上げた状態)でけん引してください。

けん引中は、エレクトロニック・パーキング・ブレーキを解除し、解除された状態が維持されていることを確認してください。4 輪がすべて接地して**いない**場合は、エレクトロニック・パーキング・ブレーキを解除する必要はありません。

注意!

上記の要件に反してこの車両をけん引すると、エンジンやトランスミッションに重大な損傷が発生する恐れがあります。不適切なけん引によって生じた損傷は、新車保証の対象とはなりません。

4X4 モデル

FCAIO では、必ず 4 つの車輪すべてを**持ち上げて**けん引することを推奨しています。

けん引の正しい方法は、車両をフラット・ベッド・トラックに載せるか、または車両の片方を持ち上げ、もう片方をけん引用台車に載せて行います。

注意!

- 残りのホイールが接地している状態で、フロントまたはリア・ホイール・リフトは使用しないでください。けん引時にフロントまたはリア・ホイール・リフトを使用すると、トランスミッションまたはトランスファ・ケースの内部を損傷します。
- 上記の要件に反してこの車両をけん引すると、トランスミッションやトランスファ・ケースに重大な損傷が発生する恐れがあります。不適切なけん引によって生じた損傷は、新車保証の対象とはなりません。
- 車両の損傷を防ぐには、適切なけん引またはリフト装置を使用する必要があります。専用のけん引バーおよび他の装置のみを装置メーカーの指示に従って使用してください。

(続き)

注意!

- 必ず安全チェーンを使用します。けん引バーまたは他のけん引装置を、車両の主要構造部材に取り付けます。フェイシア／バンパや関連するブラケットには取り付けないでください。

けん引フック - タイプ別装備

この車両には、走行不能車両の移動に使用できるけん引フックが装備されています。

けん引フックを使用するときは、次の注意事項に従ってください。

けん引フックの使用上の注意事項

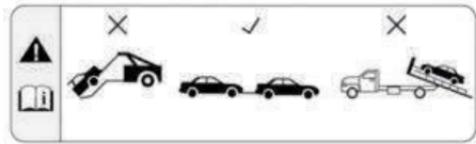
注意!

- けん引フックを車両にしっかりと固定し、車両を安全にフラット・ベッド・トレーラに積載する必要があります。車両をトレーラへ積載しているときに損傷しないよう、車両とフラット・ベッド・トレーラは平坦面に置く必要があります。
- けん引フックは道路上で発生した緊急の場合にのみ使用してください。交通規則に従った適切なデバイス(リジッド・バーまたはロープ)を用いて、けん引トラックによる輸送準備のため車両を操作します。
- けん引フックは、車両を道路以外または障害物のある場所に移動するのに使用しないでください。

(続き)

注意!

- けん引フックをけん引トラックでの吊り上げ、または高速道路でのけん引には使用しないでください。
- 立ち往生した車を脱出させる場合は、けん引フックを使用しないでください。
- これらのガイドラインに従わない場合、車両を損傷する恐れがあります。



けん引フック警告ラベル

警告!

けん引フックでけん引する場合は、車両から離れてください。

(続き)

警告!

- けん引フックでのけん引には、チェーンを使用しないでください。チェーンが切れて、重傷または死亡事故につながる恐れがあります。
- けん引フックでのけん引には、けん引ストラップを使用しないでください。ストラップが切れる、または外れて、重傷または死亡事故につながる恐れがあります。
- 正しいけん引フックの使用方法に従わないと、構成部品が破損し、重傷または死亡事故につながる恐れがあります。
- 車両がけん引されている間は、ブレーキおよびステアリング・パワー・アシスト・システムは機能しません。したがって、より大きな力をブレーキ・ペダルおよびステアリング・ホイールに加える必要があります。けん引の際には柔軟なロープは使用せず、急激な動きは避けてください。車両をけん引しているときは、エンジンを始動しないでください。リングを締め付ける前に、ネジ付きハウジングをしっかりと清掃してください。車両をけん引する前に、リングがハウジングに完全にネジ留めされていることを確認してください。

けん引フックの取り付け

フロントけん引フック

フロントおよびリアけん引アイ・ソケットは、フェイスア/バンパー内の小さなアクセス・ドアの後ろにあります。

けん引フックを取り付けるには、車両のキーまたは小さいドライバを使用してカバーを開けます。けん引フックをソケ

ットにねじ込み、完全に締め付けられていることを確認します。

けん引フックは、フロント・バンパー内部のブラケットにしっかりと取り付けてください。けん引フックがブラケットにしっかりと取り付けられていない場合、車両を移動させないでください。



フロントけん引フック・アクセス・ドア



フロントけん引フックを取り付けた状態

リヤけん引フック

けん引フックは、リヤ・バンパー内部のブラケットにしっかりと取り付けてください。けん引フックがブラケットにしっかりと取り付けられていない場合、車両を移動させないでください。



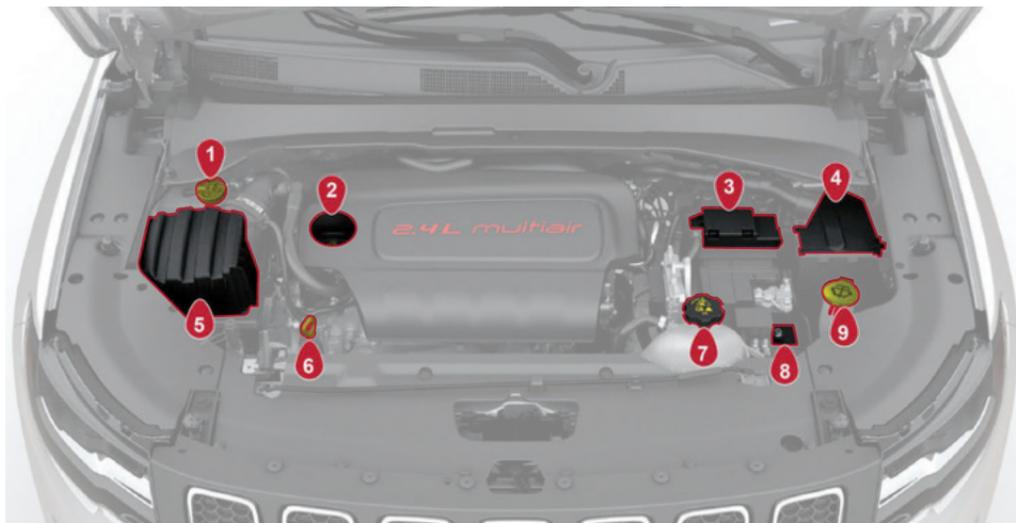
リヤけん引フック・アクセス・ドア



リヤけん引フックを取り付けた状態

エンジン・ルーム

2.4L ガソリン・エンジン



- 1 - ブレーキ・フルード・リザーバ・キャップ
- 2 - エンジン・オイル・フィラ
- 3 - バッテリ

- 4 - パワー ディストリビューション・センタ(ヒューズ)
- 5 - エンジン・エアクリーナ、フィルタ
- 6 - エンジン・オイル・レベル・ゲージ

- 7 - エンジン・クーラント・プレッシャ・キャップ
- 8 - 停止/始動バッテリー
- 9 - フロントガラス・ウォッシャ・リザーバ

フルード容量

	US(米国)	Metric(メートル単位)
燃料(およその数値)		
全エンジン	15.9 gal	60 L
エンジン・オイル(オイル・フィルタ交換時)		
2.4L ガソリン・エンジン	5.5 qt	5.2 L
冷却装置*		
2.4L ガソリン・エンジン	6.8 qt	6.5 L
* ヒータおよびクーラント・リカバリ・ボトルの最大レベルまで注入した場合		

エンジン・フルードおよび潤滑剤

部品	フルード、潤滑剤、純正部品
エンジン・クーラント	メーカーの材料規格 MS.90032 の要件に適合した Mopar®不凍液/クーラント、10 年/240,000km(150,000 マイル)フォーミュラ OAT(Organic Additive Technology)の使用をお勧めします。
エンジン・オイル - 2.4L ガソリン・エンジン	Mopar®, Pennzoil, Shell Helix など、メーカーの材料規格 MS-6395 の要件に適合した API 認定の SAE 0W-20 エンジン・オイルの使用をお勧めします。適切な SAE 等級については、エンジン・オイル・フィラ・キャップをご覧ください。
燃料の選択 - 2.4L ガソリン・エンジン	リサーチ・オクタン価 (RON) が最低 91。

シャーシ・フルードおよび潤滑剤

部品	フルード、潤滑剤、純正部品
マニュアル・トランスミッション(FF モデル) - タイプ別装備	Mopar® C シリーズ・マニュアル&デュアル乾式クラッチ・トランスミッション・フルードの使用をお勧めします。
オートマチック・トランスミッション(6 速)(FWD モデル) - タイプ別装備	Mopar® AW-1 オートマチック・トランスミッション・フルードまたは同等品を必ず使用してください。適切なフルードを使用しない場合、トランスミッションの機能や性能に影響を与える恐れがあります。
オートマチック・トランスミッション(9 速)(4WD モデル) - タイプ別装備	Mopar® ZF 8/9 速 ATF オートマチック・トランスミッション・フルードまたは同等品を使用してください。適切なフルードを使用しない場合、トランスミッションの機能や性能に影響を与える恐れがあります。
パワー・トランスファ・ユニット(PTU)(タイプ別装備)	Mopar®フロント・アクスル/PTU 合成アクスル潤滑油 SAE 75W-90(API GL-5)の使用をお勧めします。
リヤ・ディファレンシャル(RDM) - タイプ別装備	Mopar®リヤ・アクスル/RDM 合成アクスル潤滑油 SAE 75W-90(API GL-5)の使用をお勧めします。
ブレーキ・マスタ・シリンダ	Petronas Tutela Top 4/S の使用をお勧めします。

整備およびお手入れ

お手入れの計画

定期整備については、「サービスおよび保証ハンドブック」を参照してください。

オイル交換のリセット - タイプ別装備

- この車両には、エンジン・オイル交換の警告システムが装備されています。チャイムが1回鳴った後に、インストールメント・パネル・ディスプレイに「Oil Change Due (オイル交換時期)」というメッセージが5秒間表示され、次の定期オイル交換の時期が示されます。エンジン・オイル交換の警告システムは法定整備のサイクルに基づいているため、エンジン・オイルの交換時期は運転状況によって変動する場合があります。
- リセットしないかぎり、このメッセージはイグニッションを「ON/RUN」位置にするたびに表示されます。

定期メンテナンス後にオイル交換の警告をリセットするには、次の手順に従ってください。

1. ブレーキ・ペダルを踏まずに、「ENGINE START/STOP (エンジン始動/停止)」ボタンを押してイグニッションを「ON/RUN (オン/走行)」位置にします (エンジンは始動しないでください)。
2. アクセル・ペダルを10秒以内に3回、ゆっくりと強く踏み込みます。
3. イグニッションを「OFF (オフ)」位置に切り替えます。

メモ:

車両を始動させたときに警告メッセージが表示された場合は、エンジン・オイル交換の警告システムがリセットされていません。必要に応じてこの手順を繰り返してください。

エンジンの慣らし運転について

エンジンおよび駆動系 (トランスミッションおよびアクスル) に対する長時間の慣らし運転は不要です。

最初の 500km (300 マイル) はゆっくりと走行してください。最初の 100km (60 マイル) を過ぎた後は、速度を 80 または 90km/h (50mph または 55mph) まで上げるようにしてください。

一定速度で走行しながらスロットルを瞬間的に全開にし、交通法規の範囲内で加速を行うことで、良い慣らし運転ができます。低速ギヤでスロットル全開加速を行うことは、車体に悪影響を及ぼしますので避けてください。

工場でエンジンに充填されているエンジン・オイルは、高品質、省エネ・タイプのオイルです。車を運転する時の気候条件に合わせてオイル交換を行ってください。

注意!

ノンデタージェント・オイルまたはストレート・ミネラル・オイルはエンジンに絶対に使用しないでください。使用した場合、エンジンが損傷する恐れがあります。

メモ:

新しいエンジンでは、最初の数千キロメートルの走行で、エンジン・オイルが若干多めに消費されることがあります。これは正常な慣らし運転の結果ですので、問題はありません。

記号

雨感知ワイパ・システム	19
温度コントロール、自動(ATC)	15
音声認識システム(VR)	9
外部照明	17
給油	26
緊急時のケース	
けん引	36
ジャンプ・スタート	33
警告、照明消し忘れ	17
警告灯およびメッセージ	13
後方カメラ	24
仕様	
オイル	41
燃料(ガソリン)	41
指示器、方向	17
自動温度コントロール(ATC)	15
車外灯	17
車線変更と方向指示器	17
車線変更補助	17
消灯遅延	
ヘッドライト	17
新車の慣らし運転期間	43
整備アシスタンス	5
走行が不可能な車両のけん引	36
点滅表示灯	
方向指示灯	17

電源コンセント	9
電動	
インバータ	10
コンセント(補助電源コンセント)	9
シート	16
燃料	
オクタン価	41
タンク容量	41
仕様	41
燃料の補給	26
不凍液(エンジン・クーラント)	41
補助電源コンセント(電源コンセント)	9
方向指示灯	17
無線充電パッド	11
容量、フルード	41
冷却装置	
クーラント(不凍液)の選択	41
冷却容量	41

A

Android Auto	9
--------------	---

I

iPod/USB/MP3 コントロール	11
---------------------	----

K

Keyless Enter n' Go™	6
----------------------	---

L

Lights(警告灯)	
イルミネーション・スイッチ、ヘッドライト	17
インストルメント・パネル	17
オート・ヘッドライト	18
デイトタイム・ランニング	17
ハイビーム/ロー・ビーム切替スイッチ	17
パッシング	17
ヘッドライト	17
ヘッドライト・スイッチ	17
ライト消し忘れ警告アラーム	17
方向指示灯	17

P

ParkSense システム、リヤ	21
-------------------	----

R

Radio(ラジオ)	
設定	8

U

UCI(Universal Consumer Interface)コネクタ	11
Uconnect	
Uconnect の設定	8

Uconnect Phone	8
Uconnect Phoneと携帯電話のペアリング(リンク)	8

V

Vehicle Settings(車両設定)	8
------------------------------	---

あ

アクスルの潤滑	42
アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC) (クルーズ・コントロール)	19

い

イルミネーション・スイッチ ヘッドライト	17
インストールメント・パネル	12, 43
スクリーン表示	13
インパータ 電動	10

う

ウォッシュャ、フロントガラス	18
----------------------	----

え

エアコン	14
------------	----

エレクトロニック・パーキング・ブレーキ	21
エンジン	40
オイル	41
オイル・フィラ・キャップ	40
オイル、選択	41
クーラント(不凍液)	41
ジャンプ・スタート	33
慣らし運転について	43

お

オイル、エンジン	41
推奨	41
粘度	41
容量	41
オイル交換表示灯	43
オート・ヘッドライト	18
オートマチック・トランスミッション フルードの種類	42
フルードの補充	42
オートマチック・ハイ・ビーム	18
オクタン価、ガソリン(燃料)	41

か

カスタマ・サポート	5
カメラ	24
カメラ、リヤ	24

き

キャップ、フィラ オイル(エンジン)	40
-----------------------------	----

く

クーラント(不凍液)の選択	41
クルーズ・コントロール(スピード・コントロール) ..	19

け

けん引 走行が不可能な車両	36
けん引フック	37

こ

コネクタ ユニバーサル・コンシューマ・インターフェ ース(UCI)	11
コンセント 電動	9

さ

サラウンド・ビュー・カメラ	24
---------------------	----

し

シート	
ヒータ	15
ヘッド・レスト	16
ベンチレーテッド	16
メモリ	16
シート・ヒータ	15
ジャッキ・アップ位置	31
ジャッキの操作	31
ジャッキ作業の手順	31
ジャッキ作業の準備	30
ジャンプ・スタート	33

す

スタック、脱出	35
スタックからの脱出	35
ステアリング	
ホイール、音声認識	9

て

デイトタイム・ランニング・ライト	17
デフロスタ、フロントガラス	14

は

パーキング・ブレーキ	21
------------	----

パッシング	17
-------	----

ひ

ヒータ/エアコン	
オートマチック	14
説明	14

ふ

フォグ・ライト	17
フルード、ブレーキ	42
フルード容量	41
ブレーキ・システム	
フルードの点検	42
ブレーキ・フルード	42
フロントガラス・ウォッシュャ	18

へ

ヘッド・レスト	16
ヘッドライト	17
オートマチック	18
スイッチ	17
ハイビーム/ロー・ビーム切替スイッチ	17
パッシング	17
ライト消し忘れ警告アラーム	17
消灯遅延	17
ヘッドレスト	16
ベンチレーテッド・シート	16

ほ

ボイス・コマンド	9
ボンネット・ブロップ	25
ボンネット・リリース	25
ボンネットを開ける	25

ま

マルチファンクション・コントロール・レバー	17
-----------------------	----

み

ミラー	
ルーム	29

め

メモリ・シート	16
メモリ機能(メモリ・シート)	16
メモリ設定	16

ら

ラッチ	
ボンネット	25

り

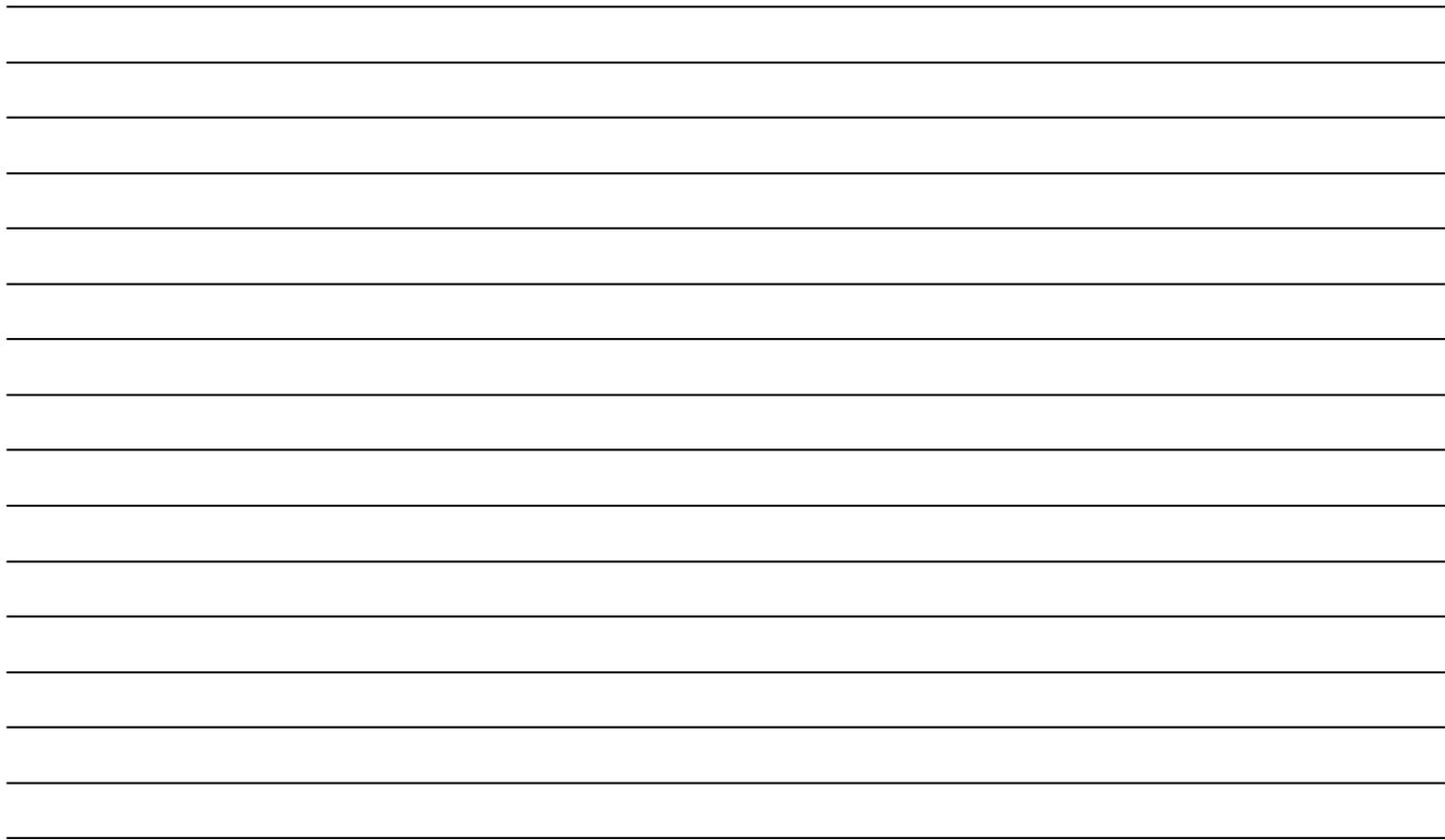
リフトゲート	26
リリース、ボンネット	25

る

ルーム・ミラー	29
---------------	----

わ

ワイパ、雨感知	19
---------------	----





Jeep



uride

3000m
3500m

初版

©2024 FCA US LLC. All Rights Reserved. Jeepは、FCA US LLC社の登録商標です。 App StoreはApple Inc.の登録商標です。 Google PlayストアはGoogleの登録商標です。

25_M6_OH_JA_JA